Keio University

港区三田会

創立三十周年記念誌

令和二年四月

港区三田会創立30周年記念総会・懇親会

令和元年5月11日（土）午後3時より、「三田キャンパス北館ホール」にて「創立30周年記念総会」を開催。

港区三田会は、昭和23年創立。昭和38年に赤坂、麻布、芝、高輪の4区域に別れそれぞれ独立した三田会が設立されたが、昭和43年より活動が中止となった。平成元年11月に現在の港区三田会が再結成され、今年創立30周年を迎えた。

第一部

創立30周年記念総会は、司会の米盛泰輔君の開会の辞で始まり、佐治信忠会長の挨拶、続いて長谷山彰塾長よりご祝辞を頂戴した。その後客席中央に集まり、全員で記念写真を撮影した。

塾長が退席された後、議事に移り、野田和敬君が議長に選出され、昨年度の会計報告並びに活動報告、今年度の上半期の活動予定の案内、ホームページ作成が発表された。議事は滞りなく進み、当日の出席の会員により全て承認され、出席者全員で「塾歌」を斉唱して閉会となった。

第二部

第二部では、若林鶴雲氏（若林誠二氏47商）による講談「慶應義塾名応援歌誕生物語」を楽しんだ。

会場を「ファカルティクラブ」に移した懇親会は、池田裕君の乾杯の発声により開会。新入会員12名の紹介。当日来賓としてお越しくださった近隣三田会の足立、城北、新宿、世田谷、中野の各三田会の代表者からのご挨拶、その後、アンラッキービンゴで盛り上がった。

会の締めは恒例の「若き血」。平光宏君に加え、初代チアーの飯田むつみ君、村上治江君が登場。華麗な演技に一同意気が上がり、大声で合唱して閉会となった。

今回の出席者は来賓の方をあわせ、総勢73名。今年も、出席者全員に港区三田会会員で日本古美術「白水」の代表を務める寺崎正氏より、高級煎茶のプレゼントが手渡された。

当日の出席者は、以下の方々です。

慶應義塾長	長谷山　彰様	塾員センター課長	北村　和夫様
足立三田会会長	近藤　　勝様	城北三田会会長	木川るり子様
新宿三田会会長	八木　秀記様	杉並三田会代表世話人	服部　　泰様
世田谷三田会事務局長	横山　誠二様	世田谷三田会幹事	飯田　浩一様
目黒三田会会長	安川　　健様	目黒三田会副会長	乃村　博子様
中野三田会会長	北島　　勇様		

港区三田会会員・ゲスト（敬称略）

青木　陽一	安藤　孝一	伊藤　裕造	五十嵐康之	飯田むつみ	池田　幸司
池田　　裕	稲垣　純一	稲垣　好子	渡辺　　新	上野　景典	梅津　基市
小川　貴章	小田　恒義	大塚　隆朗	大貫　孝雄	太田　秀和	岡田　　孜
押本　泰彦	久保居寛孝	佐治　信忠	佐治　英子	櫻井　裕大	桜内美貴子
加藤　晴子	執行　恒治	柴田　　透	白鳥　　覚	田中久璽子	平　　光宏
高橋　賢樹	武石　陽一	武石　　希	竹内あゆみ	武見　敬三	寺崎　　正
中村　茂博	中村　光康	永田　雅士	西岡　康弘	野田　和敬	服部　昌憲
浜田　敏男	林　　荘祐	林　　達夫	林　　恭弘	伴　　紀子	日原聡一郎
桝田　邦道	三田村和夫	三田村祥子	村上　治江	毛利　千里	森　　淳
柳井　健夫	山岡登文子	佐野太一郎	山谷　萌子	山本　隆夫	防村　信行
志方　理奈	米盛　泰輔				

祝辞

慶應義塾長　長谷山 彰

港区三田会創立30周年、まことにおめでとうございます。これまで港区三田会を守り育ててこられた、初代、故・櫻内義雄会長、2代目椎名武雄会長、そして現在の佐治信忠会長をはじめ、歴代会員の皆さまのご尽力に敬意を表するとともに、心からお祝いを申し上げます。

慶應義塾は明治元年（慶應4年）芝新銭座時代に慶應義塾と命名されました。そして明治4年には三田の地に移転しておりますから、実は慶應義塾の長い歴史のほとんどは、現在の港区で刻まれていたといえます。そして、港区三田会は、平成元年に慶應義塾のお膝元に是非三田会をつくりたいという、櫻内義雄初代会長を中心とする会員の皆さまの強い思いによって創立されたと伺いました。地理的にも、精神的にも、港区三田会は慶應義塾に最も近い三田会であるといえます。

港区三田会が創立された1989（平成元）年は、海外ではベルリンの壁が崩壊し、中国では天安門事件が起こるという激動の年でしたが、義塾においては、翌年、湘南藤沢キャンパスが開かれ、総合政策学部、環境情報学部が創設されています。海外ではニューヨーク学院が開設され、全塾的には大学部開設100年を祝っています。平成のはじめ、これから慶應義塾が大きく発展していく時期に誕生した港区三田会が、今度は令和元年という新しい時代に創立30周年を迎え新しい歴史を刻もうとしていることは大変印象深いことです。

現在の義塾に目を向けますと、三田キャンパスでは、2019年4月に、デジタルとアナログのコンテンツが融合した新しいタイプの博物館「慶應義塾ミュージアム・コモンズ」の建設が始まりました。また、旧図書館の耐震工事が5月に終わり、引き続き、創立者福澤諭吉の事績や慶應義塾の歴史をたどる展示施設「福澤諭吉記念慶應義塾史展示館」の開設をめざして改修工事が進んでいます。両施設とも2020年、東京オリンピックの年にスタートいたします。

現在、慶應義塾は六つの大きなキャンパスを持つ総合大学に成長しており、三田キャンパスで学んだことがないという卒業生も増えてきていますが、『慶應讃歌』に、「あゝ美しき三田の山　第二の故郷三田の山」という歌詞があるように、福澤先生が塾生とともに過ごし、教え、終焉を迎えた三田キャンパスは、義塾にとってまさに精神的故郷ともいうべき場所です。

そして、その三田の名を冠した三田会は、社中協力の精神を象徴する組織です。慶應義塾では、卒業式には卒業25年の塾員を、そして入学式には卒業50年の塾員をご招待していますが、皆様、後輩の塾生を見守り、義塾、塾生に対して、多大なご支援を下さっています。

福澤諭吉は「世の中に最も大切なるものは人と人との交り付合なり。是即ち一の学問なり」という言葉を残しました。港区三田会では、月例懇談会のほかにも、歌舞伎の観劇、相撲観戦ツアー、グルメツアー、あるいは海外の三田会との交流を図る海外旅行など、多彩な活動が展開されており、義塾創立の精神が脈々と伝えられていると感じます。

港区三田会が、これからも会員相互の親睦を深め、義塾との絆を強めながらさらに発展されることをお祈りして、お祝いの言葉といたします。

ごあいさつ

港区三田会会長　佐治 信忠

本日は港区三田会2019年総会・懇親会にご出席を頂き、誠にありがとうございます。港区三田会の30周年を皆様とお祝いできることが出来、大変嬉しく存じております。

また後ほどご挨拶を頂きますが、大変お忙しい中、長谷山塾長はじめ、塾員センター北村様、また7地区の三田会の代表の皆様にもご出席を賜り、心から御礼申し上げます。

このように30周年のお祝いができますのは、初代は櫻内義雄会長、2代目の椎名武雄会長による大変なご尽力、また歴代の会員の皆様のご協力による賜物と、深く感謝申し上げます。この30年の間に慶應義塾も大きな発展を遂げることが出来、大変喜ばしく思います。また、港区三田会も皆様のご支援で同様に発展してきたことを心から感謝申し上げます。

まさに平成の時代と共に歩んできた港区三田会が、新しい令和の時代にも発展し、ひいては慶應義塾の発展に資するよう、皆様と協力し、ますます本三田会を盛り上げて参りたいと思います。

今年も数々の企画をご用意しております。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

最後に、港区三田会会員の皆様のご健勝と、長谷山塾長のご健勝ご活躍、また慶應義塾のますますの発展を祈念して、私の挨拶とさせて頂きます。

港区三田会25周年記念ボトル

初代事務局長　髙 木　繁（1983 医）

2014年度は港区三田会設立25周年にあたります。平成元年の設立以来、多くの方々に月例会やイベント企画にご参加いただき盛り上がってこれました。感謝の限りです。今年度の総会は記念総会という事で、80名近い参加者があり、また会報への小屋洋一さんの報告にもあるように25周年記念旅行として訪台し、現地台湾三田会とも親睦を深める事ができました。さらに写真のような港区三田会会員限定の記念ウィスキーを佐治会長より会員全員にプレゼントしていただきました。勿論非売品で限定品ですので、どのタイミングで開栓して味わうか悩まれた方も多かったのではないでしょうか？　まだ未開栓で飾られている方もおられるかも知れませんね。佐治会長には総会でのビールやワインの費用のご負担や記念ウィスキーボトルの作製など感謝の念に堪えません。また陰で色々ご手配いただいている秘書の石原さんにも感謝です。

（港区三田会会報第24号より）

港区三田会の歴史

古くは、昭和23年に港区三田会が創立されました。その後港区内の塾員数が飛躍的に増加したため、昭和38年に赤坂、麻布、芝、高輪の４区域に分け、それぞれ独立した三田会が設立され、４つの三田会を統括する「港区合同三田会」が結成されました（ちなみに、港区合同三田会の発会式・祝賀パーティーは、三田キャンパス西校舎、518番教室と、学生食堂で開催され、会費は500円でした）。しかしながら、昭和43年より活動を中断しておりました。（下記は当時の案内文書の内容）

港区合同三田会の結成について（昭和38年10月1日）

港区三田会が結成せられてすでに15年となりましたが、創立当時に比してその後区内の塾員数が非常に増加いたしてまいりましたので､此際港区三田会を発展的に解消し、港区を芝、高輪、麻布、赤坂の４区域に分け、各々独立した三田会を創立して、その区域内の塾員相互の親睦を深め、一層その団結を計る様にいたしたいため、同封「会則」の様な港区合同三田会を発足するに至りました。

港区各区域内の全塾員に各三田会の会員となっていただいて、同区域内の塾員相互の親睦を計りたいと存じます。

ついては、下記の様な発会式を催すに当って奮ってご出席下さる様御願い申し上げます。

記

日　時　　昭和38年10月19日（土）　集合午后2時

場　所　　芝三田本塾西校舎

（1）発　会　式　　518番教室（午后２時30分～４時）

（2）パーティー　　食　　堂（午后４時～５時）

会　費　　500円

以上

港区合同三田会世話人名簿

港区赤坂三田会

会　長	横浜　礼吉	大12経卒
世話人	串田　武雄	昭９経卒
〃	大塚　雄司	昭29経卒

港区芝三田会

会　長	田口　　明	昭７経卒
世話人	鈴木　和男	昭14政卒
〃	下島　敏男	昭35経卒

港区麻布三田会

会　長	櫻内　義雄	昭10経卒
世話人	永田　　浩	昭16経卒
〃	服部　禮次郎	昭17経卒

港区高輪三田会

会　長	国分　貫一	昭５経卒
世話人	笠原　慶太郎	昭15経卒
〃	川崎　悟郎	昭22経卒

港区三田会設立のおしらせ（1989年10月の案内）

慶應義塾塾員も年々増加の一途をたどり、幅広い分野に於いて目覚ましい活躍をしており、また塾員を対象とした各三田会も現在は700を数えるに至りました。しかし慶応義塾大学のお膝元ともいえる東京都港区に現在三田会が存在しないということを皆さんご存知でしょうか?

古くは昭和23年より港区三田会が結成され会員数の増加に伴って、昭和38年には港区合同三田会と名を変え活動をしておりましたが、昭和43年より活動を中断しておりました。しかし現在港区在住の塾員は4,000名を数え、港区勤務の塾員までも加えますとゆうに10,000人は越えております。このような中で港区の塾員の方々から、港区三田会発足要望の声が多々聞こえて参りましたのは当然のことではないでしょうか。

今後塾員の数も益々増える一方、各分野でご活躍中の塾員の職業内容が段々細分化、専門化されていき、仕事を離れたコミュニケーションの場が失われつつあるのが現状のようです。

そこで私共港区三田会設立委員会としましては、是非我々の手でもう一度港区三田会を復興し、この会を塾員の方々に情報交換,社会活動の交流の場として役立ててもらおうと考えております。会長には櫻内義雄氏（国会三田会会長）を予定し、内容の濃い会を運営して参ります所存でおりますので、塾員各位の御理解と御協力の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

石川忠雄塾長のご祝辞

新生「港区三田会」の発足の報にふれ、心より賛同申し上げると共にそのご発展を願って止みません。

慶應義塾からは毎年多くの塾員が誕生しておりますが、その多くは、日頃住まいや勤務地という形で“港区三田”という名に学生時代と変わらぬ愛着を抱きながらも、塾員としての連帯感に欠けた日常を物足りなく感じておられるのではないでしょうか。

同じ教室で学んだ人々との再会はどんな時でも嬉しいものです。それは年代を超えたものであれば尚更有意義なものとなるでしょう。そして何よりも“我ら塾員なり”という結びつきは、何にも代え難い信頼感となることと思います。我ら学び舎を同じくする者のみが持ち得る信頼の絆を、この三田の地で深められることを心から望みます。

並びに、この会の設立を支えた同窓の諸氏に深く感謝の念を抱きつつ、「港区三田会」の今後のご発展を切に期待しております。

櫻内義雄初代会長のお言葉

我々塾員の多くが在住、若しくは在勤という形で常日頃最も身近に感じている港区は、そもそも我々の第二の故郷ともいうべき慶應義塾の所在地である。様々な形で「三田会」が存在し、活動の輪を広げている今日、港区に「三田会」が存在し得なかったという方が、むしろ意外とも言うべきであった。

漸くの感に、この「港区三田会」の再発足には、思いの外多くの塾員諸君が新しい期待を寄せておられることと思う。ここで得る旧知の或いは未知の同窓生との交流は、近い将来、必ずや新しい社会的価値を生み出してゆくことになるだろう。

私もまた及ばずながらこの会の一端を担わせて頂くことになり、この繁栄を願わずにはいられない。幼稚舎より大学まで三田に育ち学んだ私は、率先して「港区三田会」の彌栄に尽力致す所存である。どうか宜しく御指導御鞭撻を賜りたい。

「お膝元」三田会

三田村 和夫（1959 経）

かなり前の事ですが、品川区在住の先輩から電話がありました。面識は無かったのですが、「福澤先生のお膝元、港区に三田会が無いのだよ」と切り出され、「君の他にも何人かに声をかけたから某日、某所に行ってくれ。港区三田会を復活させてくれ」と言われました。その「某日、某所」で出会ったのが野田和敬君で、その並々ならぬご努力で出来たのが今の「港区三田会」です。あれから「もう、30年か」と思うと小生も感無量です。

野田君のお力添えは大したもので、お蔭様で「お膝元」三田会が復活し、今も存続し、活動が続いていると言って過言ではないでしょう。小生も心から感謝して居ります。「品川区在住の先輩」はご存命かどうか判りませんが、温かく見守って下さって居ると思います。

三田会の最大の長所は「塾出身」という共通点が、「本音での話」に直ぐに繋がることではないでしょうか。塾員以外の社会では余り見られない現象で、外部からは羨ましがられます。これからも残して行きたい、好ましい慣例です。

「お膝元」三田会の更なる発展を願い、会員の皆様の各方面での益々のご活躍を祈って、今の「港区三田会30周年」の祝辞に代えます。

港区三田会の再興と髙木繁先輩

野間 健（1981 法）

昭和が終わりに近づいていた頃、サラリーマンだった私は、ある勉強会で塾医学部出身の髙木繁先輩と知り合いました。いろいろな異業種交流会や様々な学校関係の会合を主催され、非常に顔の広い髙木先輩と意気投合し、話し合っているうちに、そういえば慶應義塾お膝元の港区に三田会がない、ということに気づき、これは何とかしなくてはと談至りました。当時髙木先輩も私も港区に居住しておりました。

早速、塾監局でお膝元に三田会がない理由を調べてみると、昭和40年代くらいまで港区合同三田会が存在したが、その後活動が休止しているとのことでした。

福澤先生が塾を創立された時代の、三田や高輪は江戸・東京の郊外で、田園地帯だったようですが、高度成長以降の三田、高輪、芝、赤坂など港区は都心のオフィス街となり、居住人口は極端に減少し、おそらく港区に自宅を持つ塾員中心の三田会はなかなか維持し難くなっていたのではないかと思われます。

髙木先輩と、港区お膝元に三田会を再興しよう、と決意を固め、塾監局から塾員名簿を頂いて、一からのスタートとなりました。時代に合わせて、港区居住所だけでなく、港区勤務者も会員になれるように規約も考えました。

角田三平先輩、梶原卓一先輩、野田和敬先輩などのご支援やご協力を頂き、さらには地元三田の大先輩・笠原慶彰同栄信用金庫理事長や櫻内義雄衆議院議長などからも、「お膝元に三田会がないのは寂しい、頑張れ」と、力強い励ましも賜り、平成元年11月の再結成に至りました。

髙木先輩は発足前の時代から手弁当で事務局を担われ、常に会員拡大の推進や楽しく有意義な活動内容を企画され、会の大黒柱としてこの30年間頑張ってこられました。残念ながら昨年逝去されました。港区三田会再興の功労者として、感謝の誠を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

笠原慶太郎さんをしのぶ

服部 禮次郎（1942 経）

笠原さんが亡くなられたことは、港区三田会にとってまことに悲しいことであり、残念なことであります。

現在の港区三田会が盛大に再発足したのは、一昨年11月のことでありますが、実は今から30年以上前に、港区三田会がはじめて誕生したときから、笠原さんはその中心人物のおひとりでした。第１回の港区三田会の会合は、たしか白金の八芳園で開かれました。八芳園は、慶應の大先輩・久原房之助さんの庭園で、そのころは久原さんもまだそこに住んでおられ、港区三田会の会場に和服姿で出てこられたのを記憶しております。

笠原さんは、そのころから、横浜礼吉さん（大正12年卒）、國分貫一さん（のちの國分勘兵衛さん、昭和５年卒）とお三人で、港区三田会の組織づくり、名簿づくり、会員への呼びかけなどを熱心に務めておられました。そのお三人のうち、横浜さんはすでに18年前に亡くなられ、今年６月17日に笠原さんが亡くなられ、そして12月13日には國分さんもお亡くなりになりました。まことにさびしいことです。

笠原さんは、私にとっては幼稚舎以来の先輩ですが、３年はなれているので塾生時代の笠原さんについては、取り立てて想い出はありません。ただ、私の兄がこれも幼稚舎以来私と笠原さんとのあいだのクラスにいたこと、笠原さんのご尊父（笠原慶三氏）が私の父と中学（府立一中）で同級生だったこと、笠原さんのお住居が、私どもの白金の住居とあまり遠くない泉岳寺前にあったことなどから、笠原さんのお名前はなにかにつけて耳にしておりました。

その笠原さんにたびたびお目にかかるようになったのは、塾を出てから、連合三田会や幼稚舎同窓会などの幹事会で、それぞれのクラスの幹事としてご同席するようになってからでした。そのような相談ごとのときに、笠原さんはいつも適切なご意見をおだやかな口調で述べられ、一座の信望を集めておられました。

笠原さんは世話好きのかたであり、誰にもご親切なかたでした。私たち後輩に対しても、いつも声をかけて下さって、親しくつきあっていただきました。

笠原さんはこよなく塾を愛するかたでした。そして、港区を大切にするかたでした。その笠原さんを失ったことは、笠原さんとおなじように港区に生まれ育ち、笠原さんとおなじように慶應に通い、いまも港区に住む私にとって、なんとも悲しいことであります。立派に復活した「港区三田会」がますます盛んになってゆく姿を、もっと長く笠原さんに見ていただきたかったと思います。

謹んでご冥福を祈ります。

「港区三田会会報」発刊の辞

港区三田会会長　櫻内 義雄（1935 経）

慶應義塾の地元、港区三田会が新生発足して早３年が経過した。この間、関係塾員各位の努力により、500名余の会員が参加し徐々にお膝元三田会としての姿を成しつつある。

２回の総会の開催、名簿の発行、月例会や散策会の催し、さらに藤沢新キャンパスへの寄付など、会員各位のさまざまな知恵を集め活動して行く中で、塾員相互の親睦も深まり社中協力の実も上がりつつあると言えよう。

このたびは、会員のコミュニケーションをはかり、三田会活動へのより積極的な参加と協力を促す意味から「港区三田会会報」を発刊することとなった。500名余の大所帯であり、ぜひ会員相互の紙上の出会いの場としていただくとともに、地元の三田会という特性を活かした身近な塾との付き合いなどについての寄稿を、積極的にお願いする。

会員各位の、心のこもったご協力とご支援をお願いしたい。

末筆ながら皆さんのご健勝を祈念し発刊の辞とする。

慶應義塾の地元三田会会報創刊号がつづる夢

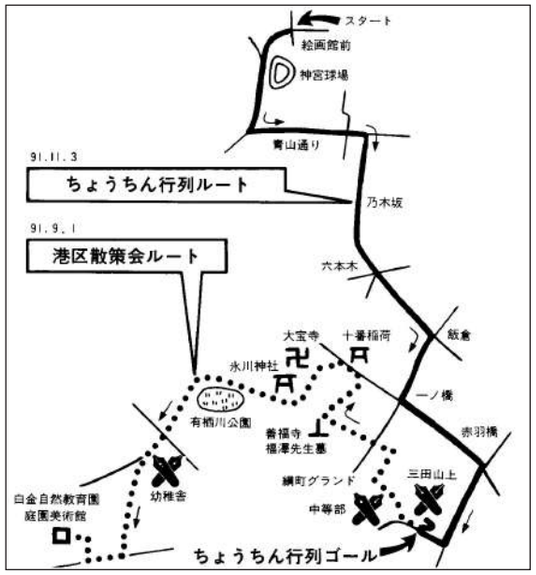
林 荘祐（1965 工）

港区三田会会報の「創刊号」を我が家で大切に保存している。B４判４ページ上質紙で掲載写真7枚はいずれも白黒だが1面に慶應義塾のシンボルマークが青赤三色カラーで紙面を飾る。発行日の記載が欄外にも無いが、初代会長・櫻内義雄さん（1935経卒）の巻頭言「会報発刊の辞」に、慶應義塾の地元に「新生発足してはや３年」とあり、創刊は1989（平成元）年11月の三田会設立後の92年3月になる。創刊以来、年１回総会時に発行し年間活動記録の掲載を続ける。昨年亡くなられた初代の当会事務局長、髙木繁さん（83医）は会運営の傍ら、創刊当時から原稿集めや編集レイアウトにご尽力、奔走され、３年前、BRB代表の野田和敬さん（80商）に事務局長を継ぐとともに会報制作もバトンタッチした。

「港区三田会会報」創刊号　1992年発行（所蔵・林 荘祐）

創刊号の紙面を見ると、櫻内会長は発刊の辞で「会員各位のさまざまな知恵を集め活動していく中で、塾員相互の親睦も深まり社中協力の実も上がりつつある」と会発足２年を振り返り、地元三田会の「特性を活かした身近な塾との付き合いなど」積極的な寄稿を呼びかける。次に会員の寄稿が並び、まず「港区三田会散策会のこと」を梶浦卓一さん（68法）が記す。秋の快晴、暑い一日、三田の塾正門に集合、中等部、綱町グランド、オーストラリア大使館前、二の橋を通り、善福寺で福澤諭吉先生のお墓にお参り、麻布十番商店街を抜け、有栖川宮記念公園で昼食。幹事が用意したおにぎりをほおばった。幼稚舎前から白金の自然教育園まで、会長もジョギング姿で参加するなど、５時間のゆったりウォーキングを楽しんだ。

次いで「港区三田会月例会に思う」で久保居寛孝さん（85文）は、毎月第二火曜に開く月例会の盛り上がりを語る。自ら経営するレストランの一室を夕刻２時間、会場に提供して下さった。吉岡民子さん（71法）は「港区三田会に出席して」思いを綴り、会員の積極参加を呼び掛けた。池田裕さん（57政）の「一番偉い区の三田会」は異彩を放つタイトルだが、「三田は全国の慶應OBの目と思い入れが集中する聖地」で「そこを縄張りとする三田会」は、「聖地の騎士団のようなもの」と胸を張る。角田三平さん(65商）は「今までのこと、これからのこと」で、地域三田会は「学生時代の交友関係を基にしない」特色があり「仕事や年齢が異なる方達」と「一対一の立場で」いろいろ話ができると評価し期待する。「提灯行列で都心散歩」は林荘祐（65工）の拙稿。塾野球部の春秋優勝に酔いしれて神宮から三田山上まで足取り軽く心地よい提灯行列ウォーキングの実況メモだ。



会報創刊号に掲載の提灯行列と散策会ルート（イラスト原図・林 荘祐）

港区三田会は戦後すぐ48（昭和23）年に誕生した記録が残る。連合三田会会長を長く務められた服部禮次郎さん（42経）は、創刊号に寄せた「笠原慶太郎さんをしのぶ」追悼文の中で、70年以上前の誕生当時から笠原さんは横浜礼吉さん（大正12）、國分貫一さん（昭和30）と３人で「組織づくり、名簿づくり、会員への呼びかけなどを熱心に努めておられました」と功績を称えた。設立後15年も経ったころ会員数が多くなったため63（同38）年に芝、高輪、麻布、赤坂の4地域に分け、区域内で一層の親睦を深めようとそれぞれ独立した三田会を設立し、同時にそれらを合わせて「港区合同三田会」を結成したが、なぜか5年後に活動を停止してしまった。20年以上の間をおいて89年に現在の港区三田会が復活した。

「91年度総会・懇親パーティー」は乃木坂にあった健保会館で90余名が参加し、その記事は会員数「500名を超える大所帯」と伝える。活動の参考にするため総会でアンケートを実施し約60名の回答を得て集計した結果を掲載。イベント開催の希望に、スポーツ・娯楽はゴルフが多く、次いでテニス、スキー、クルージング、ボウリング、麻雀など。少数意見でスキューバダイビング、水泳、囲碁もあった。旅行の希望は日帰り、一泊が多く、ハイキングや三泊以上の海外旅行もあった。講演会や塾への貢献事業にも言及し、そのほかグルメ会、家族会、観劇の希望が多く、ラグビー・野球観戦、ビンゴ大会、キャンプ、歌舞伎観劇、グルメ食べ歩きなどが挙がった。これまでこれらイベントをいくつか実施している。

我が家に保存する会報第2号は92年度の月例会の実施報告が載る。会員の専門を生かした講話があり、池田裕さん「宝石について得する話」、伊能重雄さん「交通事故に遭ってあわてないように、事故保険と医療」、角田三平さん「上手な不動産マネージメント」、猪狩俊郎さん「弁護士依頼時の費用」、佛子邦夫さん「仏門における費用」、村上正介さん「ワイン入門」、髙木繁さん「上手な医者のかかり方」などの記事が並ぶ。ふだん切実ともいえる夢と現実のテーマで、時を忘れて質疑が続く様子が浮かぶ。総会・懇親会を盛り上げる應援指導部、チアは人気で、創刊号写真にも登場している。

港区三田会月例会に思う

久保居 寛孝（1985 文）

港区三田会が発足して早２年が経過致しました。思えば足早の月日の中で数多くの貴重な出会い、そして様々な楽しい思い出が私の心を彩って居ります。特に私にとって心残る素晴らしい方々にお目にかかり語らう機会を与えて下さる、毎月第２火曜日に行われる定例会は楽しいものでした。普段では到底お目にかかることが出来ない様な大先輩が、私の様な若輩者の隣に座って気軽に声を掛けて下さったり話を聞いて下さったりする、慶應義塾三田会ならではの社会的地位や肩書きを超えたホットな関係というものに、私は改めて感動させられました。

そもそも港区三田会発足時に、力不足ながら若手世話人の一人として仲間入りさせて頂いた栄誉から、「何か一つでも港区三田会の活性化に一役買うことは出来ないものだろうか」と無い知恵を絞って考えた結果思い付いた事が、月例会の会場の提供でした。たまたま港区西新橋で自分の経営しているフレンチレストランがサロンの個室を持つことから、「毎月第２火曜日の８時から10時迄は港区三田会のサロンとして御提供できないものだろうか」というアイデアからです。

最初のうちは情報が少なかった為か10人前後のごくささやかなものでしたが、御陰様で最近は少しずつ日増に盛り上がりを見せつつあります。この会報をお読みになった方は是非一度足を運んでみて下さい。新しく来られた方は速やかに皆様に御紹介させて頂き名刺交換等を行いますが、いつも肩の凝らない和やかな楽しい雰囲気の中で、各自が思い思いに昔話に花を咲かせたり、時には全員で今後の港区三田会の抱負について語り合ったりして居ります。

先日はある大先輩から、「慶應義塾のお膝元である港区にある港区三田会に相応しい何か斬新なオリジナリティを感じさせる行事を企画出来ないものであろうか」というご提案に対し、「大型クルーザーを貸し切っての総会又は年１度のパーティーはどうか」という、大変ユニークなアイデアも飛び出し、大いに場を盛り上げる一齣も見られました。又、会長である櫻内衆議員議長の突然の御来訪に一同緊張し、頂戴した激励の御言葉に感激した思い出もあります。いずれにしても、今後無限の可能性を秘めた若い港区三田会がこれから末長く輝き続けて行かれる上で、月例会がその活性剤としての原動力に何かしらプラスの要因になって行けたら大変素晴らしい事だと願って止みません。

最後に、塾員として本当に素晴らしい先輩後輩に恵まれた事に感謝しつつ、今後の港区三田会の発展を心から願う次第です。

一番偉い区の三田会

池田 裕（1957 政）

『ポパイ』という雑誌がある。昭和51年創刊だからすでに15年のキャリアを持っていることになる。それなりにファン層をつかんでいるにちがいない。

この誌上で59年の９月から『街のオキテ』というコラムの連載がはじまり、その初っぱなに『東京二十三区の偉い順』という妙なタイトルのランキングが作成されていた。何がどう偉いのかサッパリわからないが、まあこの際あまり固く考えるのはよそう。泉麻人なるユーモア作家だか何だかが、多分に独断と偏見で決めた一種の好感度のようなもの、と解釈しよう。

とにかく港区が１位で渋谷区が２位、そのあと世田谷、目黒、千代田とつづき、ちなみにブービーが荒川で最下位は板橋であったと記憶する――荒川、板橋の皆さんゴメンナサイ、ただし、もし怒るんなら『ポパイ』か泉さんにお願いします――

この順位表をサカナに、六本木のいつものスナックでいつものメンメンのカンカンガクガクがはじまった。と言っても、みんな一応港区の住人だから気分の悪かろうはずはない。何故港区が１位なのか、その理由づけである。

「外人が多いから国際的なのよネ」

と言ったのは花屋のミーハー娘だ。聞くところによると、イスラムボーイとつき合っているらしい。

「何といってもスリーAだね、麻布、青山、赤坂の人気は高いよ」

いかにも不動産屋的考察を吐くのは、赤坂に小さなビルを持っていることが自慢で、その窓にペタペタと仲介物件の貼り紙をしているオッサンだ。

そして、「やれ大使館が多い」、「著名人が住んでいる」、「タレントがよく来る」、「テレビ局が多い」エトセトラエトセトラで、話はいつまでもつきない。最初おとなしく水割りをなめていた塾出身の広告屋が口をはさんだ。

「泉麻人もたしか慶應だったよな」

「あれそうだったの」と言う、みんなの顔が振り向く。

「慶應義塾の本拠であり福澤諭吉の墓所の在る港区を、ヤツとしても一番偉い区にしたかったわけだよ、これはやはり愛校心の発露だな」

息子を天現寺へ通わせていることを無上の喜びとする広告屋のこの気持ちは、ストレートには他のメンメンに通じないかも知れない。泉麻人という作家が、それ程の慶應ナショナリストとも思えない。しかし似たような気持ちは塾出身者ならわかるような気がする。

ワセダのOBが高田馬場に愛着を持ち、東大出身者が本郷に郷愁を覚えるのと同じである。イスラム教のメッカ、ユダヤ教のエルサレムのように、三田は全国の慶應OBの目と思い入れが集中する聖地のようなものだ。そこを縄張りとする三田会は、いうなれば聖地の騎士団のようなものではないか。

私のようなロートルは、こんなスナックで勝手な気炎を上げるしか能はないが、ヤング騎士の皆さん、港区三田会の発展のために是非アクティブな努力を傾けていただきたい。

1993年 港区三田会会報第2号より

港区三田会４年目にあたり

港区三田会会長　櫻内 義雄（1935 経）

平成元年の11月に港区三田会設立総会に出席してから、早いもので４年の月日が経過しました。私もこの間総会には全て参加させて頂いており、その他にも月例会や散策会への参加等、時折会の企画に出席させて頂いております。

また、昨年11月には43名もの会員の皆様に国会を訪れて頂き、楽しい懇談の一時を持たせて頂きました。

現在は、関係塾員各位の努力により500名を越える会員数となり、活動も年々活発化しているように思われます。しかしながら、塾のお膝元である三田会としてはさらなる発展を期待しており、塾員相互の親睦も益々深まる様、活動を継続していってほしいと考えております。

今回、「港区三田会会報」第２号の発刊にあたり、是非会員相互の紙上での出会いの場をご利用頂き、一人でも多くの会員の方のご寄稿をお願いする次第です。

私も時間の許す限り、参加、協力していく所存でおりますので、会員各位の心のこもったご協力とご支援をお願い申し上げます。

1993年 港区三田会会報第2号より

92年度総会・懇親パーティー　3月17日

ホテル・ニューオータニ別館での設立総会、健保会館（はあといん乃木坂）での91年度総会に続き、第３回目となる港区三田会92年度総会が平成４年３月17日、慶應義塾大学三田西校舎526番教室にて開催され、総会終了後「山食」にて懇親会が行なわれた。

総会では吉岡民子君（昭46・法）司会のもと、櫻内義雄会長ご挨拶の後、安藤孝一議長（昭38・法）が選出され議事が進められた。

議事内容は、91年度会計報告並びに活動報告、役員改選、92年度活動報告並びに予算案について述べられ、全て滞りなく承認された。91年度活動としては、９月の港区散策会、毎月第２火曜日に行なわれている月例会、会報の発行、藤沢新キャンパスへの寄付。役員改選については、新任理事として本澤裕国君（昭34・経）・清水満昭君（昭38・法）・吉岡民子君（昭46・法）の３名が承認され、死去や転居に伴い２名の理事と１名の顧問が退任された。他の理事・顧問については重任という事で承認された。

92年度の活動予定としては、「月例会の充実を図る為に、毎回演者を決めて会のなかで30分ぐらいの講演を行なって知識の交流を図りながら親睦を深めては」という事になり、また好評を頂いた港区散策会の継続、会員名簿の再発行、会報の継続発行、国会見学、ゴルフ等のアンケートで希望の多かったものを企画していこうという事になった。

引き続き場所を三田西校舎内の「山食」に移し、懇親パーティーが行なわれ、昔懐かしい「山食」の場で慶應義塾大学の思い出話や近況報告等、会員相互の話は尽きることがなく、あっと言う間に楽しい一時が過ぎ去った。恒例となった応援指導部チアガールによるアトラクションが華を添え、また出席者全員が肩を組んで「若き血」を斉唱してお開きとなった。

以前より会員の声として、「一度総会を慶應義塾大学内で」と言う希望があり、92年度総会は塾内で開催する運びとなったが、塾のお膝元三田会としては意義があったのではないかと考えている。

1993年 港区三田会会報第2号より

国会見学に参加して　11月18日

梶浦 卓一（1968 法）

平成４年11月18日、港区三田会が主催した国会見学会に参加した。

当日は多少寒さがあったが、昔（はっきりとした記憶はないが）、確か小学生の頃に一度行ったことがある国会議事堂へ向けて、遠足の様な気持ちで永田町駅から集合場所である第一議員会館へ歩いて行った。

大分集合時間より早めに到着したが、会員の方や又はそれらしき方が既に多数集まられていた。きっと私と同じ様な気持ちで、足早に集まってこられたのだなと思ったりしていた。集合時間になると、櫻内義雄衆議院議員秘書の窪川さんの御案内で、最初に通されたのは衆議院議長応接室であった。衆議院議長室に続くこの議長応接室では議員運営委員会が開かれ、国会運営に関する協議などが行なわれているそうであるが、この日参加した46名が全員着席しても全く狭く感じない程大きな部屋であった。また、歴代の議長の肖像画が掛けてあり、何とも言えない雰囲気が私を未知の世界へ引きずり込んでしまった。

間もなく港区三田会会長櫻内衆議院議長が、お忙しい中を10分間程時間を作って頂き、我々の所へ来られて歓迎の意を表された。我が国会見学団は御案内人の先導、説明で、国会議事堂内外を見学コースに添って約１時間程かけてゆっくりと見学した。

私にとって昔の記憶は全くなく、国政、議事を執り行なう場所を全く新たな気持ちで見学しなおす事が出来た。昭和11年11月７日、懸賞募集で選ばれた宮内庁技手の渡邊福三の設計を基に17年をかけて建設され、その建築費用も莫大なものだそうだ。９階建ての中央塔を中心に、地上３階、地下１階の左右対称の造りとなっており、中央塔の屋根は信楽焼の陶板で、議事堂

内には37種類の国産大理石が敷き詰められており、全長4.6㎞の赤絨毯は何故か両協に40㎝程の隙間があったが、とにかくその歴史を感じさせる荘厳さに一同言葉も忘れ堪能した。中央塔の真下にある吹き抜けとなった中央広間は天井迄33mあり、法隆寺の五重塔が入る大きさであり、衆議院議場は議員定数と同じ512席が設置されており、天井は450畳分のステンドグラスによって自然光が入る様になっており、そのスケールの大きさに再び感動してしまった。

昼食を国会議事堂内の食堂でとりながら、本日の感想やまた初めて港区三田会の行事に参加された方と名刺交換をしたりして会員の方々と親睦を深めた後、地下のおみやげ用品店で国会に因んだ物を購入した。

本日はここで一応解散となるが、希望者はさらに憲政記念会館へと向かい、国会の貴重な資料を見学した後解散となった。大変有意義な企画であり、こんな機会は滅多にないので参加して大変良かった。

1994年 港区三田会会報第3号より

霊峰富士一泊旅行に参加して　7月31日～8月1日

吉岡 民子（1971 法）

快晴に恵まれ楽しく旅行がスタートしました。今回は港区三田会会員の池田裕さんの御好意により、富士高原にある池田山荘に宿泊しました。割合馴染み深い場所なので、いらっしゃらなくても想像が出来る場所かと思います。参加者の年齢層にはかなりの開きがありました（小学生も参加）が、それぞれ面白く過ごしました。

１日目は現地集合。夕食迄の間に、テレビにかじりついている子供達を残して、大人は浅間神社へ向かいました。境内の欝蒼と茂る巨木には、本当に圧倒されました。そして、おいしく夕食を頂いた後はカラオケとゲーム（子供達）。シャンデリアの下がる素敵な広間での楽しいひと時でした。

２日目は、別に急ぐ必要もないということでゆっくりと山荘を後にし、富士五湖、そして勿論富士山を遥かに望む展望台へも行きました。ハイキングコースを少しばかり歩いてから、車３台で河口湖へと降りました。大変な人出でしたが、ロープウェイに乗ったり、子供達はモーターボートで歓声を上げたりと楽しく過ごし、私達は夕方になって解散しました。帰路は心配した程の渋滞もなく、無事東京に着きました。

以上が簡単な御報告ですが、港区三田会の会員となりこのような行事に参加でき、大変良い思い出となりました。

1995年 港区三田会会報第4号より

テレビ局見学会　11月8日

佛子 邦夫（1966 法）

今回の見学会は、６チャンネルでスポットを盛んに流していました、TBSの新局社（TBS放送センター…愛称ビッグ・ハット…屋上部にある直径36mのパラボラデッキが、ちょうど大きな帽子のように見えるから付けられたとのこと）の見学です。テレビ局が見られるとのことでとても人気が高く、参加者も合計54名と多く集まりました。人数が多いということで、午後１時30分組（15名）と午後３時30分組（39名）とに分かれて見学することになりました。

私は、午後３時30分組のほうに参加させて戴きました。集合時間にTBS新局社玄関内ロビー（エントランスホール）に集まり、今回の見学会にご尽力戴きましたTBS編成局･相島和敏氏（44政）のご挨拶のあと、39名という人数の関係上、全員が一緒に廻ることは困難なので、２班に分かれて各班１人ずつTBS見学係（ガイド嬢）が付いて時間をずらせて出発することになりました。

この新局社は、地下２階、地上20階建で、B2＝非常用発電・地域冷暖房、Bl＝駐車場・電気電話設備、1F＝エントランスホール・ラウンジ・現業車両駐車場・他、2F＝TVスタジオ・ニュース関連・リハーサル室、3F＝TV放出エリア・回線エリア･事務室、4F＝TVスタジオ･リハーサル室･美術関連・他、5F＝観覧室・事務室、6F＝TVパノラマスタジオ・事務室・他、7F＝リハーサル室・事務室、8F＝ラジオスタジオ・総合資料室・他、9F＝ラジオスタジオ・他、10F＝事務室、11F＝リハーサル室･会議室･TBSクラブ･他、12F＝会議室･診療所・社員食堂、13－20F＝一般事務室となっていて、テレビスタジオはA・B・C・D・Nスタジオ及びP（パノラマ）スタジオがあり、ラジオスタジオは第1－第5、第6－8スタジオがあります。

広い新局社をガイド嬢のあとについて、カルガモよろしく見て廻りました。「私は貝になりたい」（私たちの時代ですとフランキー堺氏を思い出しますが、所ジョージ氏主演）の収録セット等の説明、クイズ番組・音楽番組の収録風景をスタジオの上のほうから見学、TBSの案内ビデオ全１巻を見ましてから、一般見学者では見る事の出来ない、大道具部屋とかニュース番組のスタジオにも入れていただき、そのほかラジオの打ち合わせ室を外から覗いたり、諸々の設備・施設を見せて戴きました。

1997年 港区三田会会報第6号より

第2回港区三田会海外旅行（マニラ）に参加して　11月8～10日

青木 陽一（1968 工）

平成８年11月８日～10日の２泊３日の日程で、一昨年（平成６年12月）のグアム旅行に続き、フィリピン・マニラ旅行が行われた。参加者は当初９名だったが、この旅行をアレンジした高木氏が、急遽当日の朝欠席となり８名で出発。約４時間半の空の旅だったが、満席なのには驚きであった。

マニラ空港より小型バスで、あのマルコス大統領が使っていたというウェスティン・フィリピン・プラザホテルへ。広い道路には自動車が溢れていて、人がこの道路を泳ぐ様に横切って行く。APECの前ということで、いたる所で道路工事が行われていた。所々には、道路沿いに目隠しの為か、高く長い壁が作られていて、工事中の壁の切れ目からスラム街のバラック群がのぞいていた。見せたくない所を見てしまった様な気がしたが、発展中のバイタリティを感じた。庶民の交通機関であり、観光パンフレットに紹介されているフィリピン独特のカラフルに装飾されたホロ付の小型トラックであるジプニーが、「ここはマニラ」という印象を与えていた。このジプニーは、日本の国道沿いで見かけるあのキンキラキンのダンプカーの元祖の様に思えたが、戦後、アメリカ軍の払い下げのジープを改造し、趣向をこらしてデコレーションしたものであるとのこと。

ホテルに到着、チェックインしてマニラ湾を一望した後、小型バスで市内見物。フィリピンは1521～1898年までの400年間はスペインに統治され、1898年～1945年までの50年間はアメリカに統治されたことにより、スペイン文化とアメリカがミックスされた様な国といわれている。マニラはその趣を残す近代都市で、スペイン統治前に築かれ大戦中に日本が占領した時は本部にも使用されたサンチャゴ要塞、400年前に建設されたサン・アグスチン教会等の名所旧跡を廻った。

夜はサンボアンガという民族ダンスを見せるレストランで、マニラ三田会会長荒川氏や他のメンバーの方々と楽しい会食を行った。その後カジノに立ち寄り、ギャンブルを楽しんだ。驚いたのは、フィリピンは貧しい人が多いといわれているが、観光客というよりは地元の人で非常に混んでいたことであり、各所で大きい貧富の差をかい間見た。

翌日は２組に分かれ、一方はゴルフ、他方はタガイタイ観光（マニラ郊外の代表的景勝地で、タール湖と活火山のタール火山で有名）へ。私はゴルフ組の方だが、ゴルフ場はかの有名な若王子さん誘拐事件が起きたカンルバンゴルフ場。ヤシの木々に囲まれ、池あり、谷ありのチャンピオンコースの素晴しいゴルフ場で、最もフィリピンらしいゴルフ場とのこと。但し、日本では晩秋だが、こちらは真夏。この日はラッキーにも台風も免れ快晴であったが、皆半ズボンというのも頷ける猛暑であった。

このゴルフ場は、マニラ市内から車で１時間程の所で、郊外の景色も充分満喫したが、ハイウェイといいながらかなりのうねりと凹凸で、お尻は何倍かの距離のドライブを楽しんだ痛さであった。

夕方は、高木氏の友人で、フィリピン南端スールー諸島のスールー王国のサルタン（国王）の養子でもある山口氏、マラカニアン宮殿でラモス大統領向けに情報収集を行っている補佐官、そして元マルコス大統領の親衛隊の大佐の計３名の案内で、楽しい中華の夕食。その後ナイトクラブに行き、カラオケ、ショーを楽しんだ。

翌朝はゆっくりホテルで各人朝食をとり、その後緑豊かな振興商業地域のマカティ地区をバスツアー、そしてショッピングを楽しんだ。マカティ地区は、ビジネス、高級ショッピングの中心で、今までの景色を一変させ「ここはアメリカか」という様な高層ビルが立ち並ぶ緑に囲まれた街であった。その足でマニラ空港へ、そして機中の人となった。

駆け足の２泊３日であったが、「これから発展して行くぞ」というフィリピンのバイタリティを感じることも出来た楽しい旅行であった。最後になりましたが、お世話になりました高木氏、戸塚さんに感謝を申し上げます。

1997年 港区三田会会報第6号より

港区の歴史と現状

大塚 雄司（1954 経）

港区三田会の皆さんが、「その所在地の港区のことを知らないのでは話にならない」ということで卓話のご依頼を受けたわけだが、それこそ今の港区三田会は戦後間もなく出来た三田会とは違って10年程前に再出発したものであって、会員の方々はそのことを余り御存じない。会長の櫻内先輩をはじめ何人かの方が前の三田会からの会員である。

櫻内先輩と言えば私とは比べ物にならないほどの国会の重鎮ですが、櫻内先輩が初めて国会に当選されたのは戦後間もない頃で、東京第一区でした。初当選後、次の選挙で失敗され島根の方に移られ、今日まで記録的当選をされておられるのです。東京は選挙が難しく私も地方に行ければ、と思ったりしますが叶わぬ話です。櫻内先輩は選挙区は島根でも港区が原点ですから、港区三田会の会長にはとてもふさわしい方であることを知ってほしいと思います。

さて、港区は平成９年３月に創立50周年を迎えます。戦前の芝区、麻布区、赤坂区の三区が統合され、東京港に面していることから港区と命名されました。その頃、東京には都心に15の区が存在しましたが、統合合併して６区（千代田区、中央区、港区、新宿区、台東区、文京区）になりましたが、周辺の17区と併せて23区（地方自治法の特別区）となった訳です。爾来50年、その発展は目を見張るものがあります。しかし、発展をしたのは残念ながら都心のビル高層化であり、その陰に都心の空洞化、つまり居住人口の激減と空きビルの増大化があり、ここには行政の誤りがあることを否定出来ません。

都心４区（千代田、中央、港、新宿）の区長は、流出人口の食い止めと定住人口の確保に政治生命をかけているのが実情です。

港区は、現在の人口が約15万人、過去多いときは26万人居たのですから、流出人口は約11万人、一つの都市が消えたようなものであります。私は大学時代、奥野教授の『都市問題』の講義を聴き、20世紀後半の課題は『都市問題』であると確信し、中央公論に『中曽根民活の虚構を衝く』と題して３カ月にわたり持論を展開し、『バブル』の誤りと日本経済に及ぼすダメージを早くから指摘してきた。政治的には党内でたたかれたが正論はどこまでも正論で、今、誤った金融が問われているのも当然である。不良資産の整理が日本経済の立て直しに欠かせない今日、銀行の不良資産の長期（50年でも良い）繰り延べ償却の制度を導入して、金利の積み上げをさせず、さらには担保を外して、土地の流動化を進めるべきだと思うのです。担保外れの土地はいずれもバラバラですから、地域毎に寄せ集めて、土地の有効利用を進めるべきであると思います。土地の交換分合を促進するために税制をはじめとする促進手段を講じ、地価の吸収のために私が建設大臣当時に導入した誘導容積制度を活用して、すっかり需要のなくなった建設事業に新たな需要を作ることが今何よりも必要なことなのです。

ちなみに、東京の都心４区とニューヨークのマンハッタン地区では、ほぼ同規模の都市と言えるが、正午の都市人口はどちらも300万人、そのうちマンハッタンは通勤人口が200万人、居住人口が100万人であるのに対して、我が東京は通勤人口が250万人、居住人口が50万人で、その差50万人であります。政策的に、都心の人口を50万人増やすことが是非必要であるのです。面積から言っても、遊んでいるインフラからいっても最も大事な施策ではないかと思います。もう、田圃や畑の田舎で少ない人口の地域に、投資効果の薄い新幹線など後回しで良いのですし、道路の投資でも、田圃や畑に作る道路はスクラップもない波及効果の薄い投資であり、後回しで良いのであります。ならば、地価が高くて遅れ気味の東京都心の街路整備こそは、『スクラップ＆ビルド』の景気回復貢献型投資と言えるし、住宅投資を重視すれば都心人口復活にも繋がるものであり、企業重視でなく、住民重視のそして生活重視の都市政策とも言え、これからの都市の在り方も変える重要施策とも言えましょう。私は、政治家としてばかりでなく、特に、日本で唯一の不動産学部のある明海大学の客員教授としても、数の減った港区三田会の会員が戻って来られるような東京都心の、そして港区の未来を作り出したいと決意しているのです。

1998年 港区三田会会報第7号より

「港区三田会97年度総会・懇親会」報告

平成8年3月11日（火）、東京都港区の虎ノ門パストラル新館「菊の間」にて97年度の総会が開催されました。吉岡民子司会者（昭46・法）のもと、まず始めに櫻内義雄会長（昭10・経）より挨拶があり、続いて角田三平議長（昭40・商）が選出されて議事が進められ、当日出席の会員により全ての議事内容は滞りなく承認されました。

昨年の活動報告並びに会計報告の後、平成9年度は毎月第2火曜日開催の月例会並びに講演会、ゴルフコンペ、第6回見学会、第7回散策会の継続の他、スポーツ観戦会、他の地域の三田会との合同懇親会、国内旅行、俳句の会等を新しい試みとして可能なものは実行して行こうという事になりました。結局スポーツ観戦企画以外は97年度は実行出来ませんでしたが…

その後、塾よりお越し頂いた小松隆二常任理事より御挨拶及び塾の近況報告を頂戴した後、出席者全員で塾歌を斉唱して総会は閉会し、引き続き行われた懇親会では、当日来賓で来た頂いた城北三田会、発祥の地中央区三田会、足立三田会、杉並三田会、三鷹三田会、目黒三田会の方からご挨拶を頂いた後、ジャンケンゲーム、ビンゴゲーム等で会場は一層盛り上がり、最後は恒例の参加者全員による肩を組んでの「若き血」を斉唱し、97年度総会並びに懇親会は盛況の内に終了致しました。

1998年 港区三田会会報第7号より

97年度港区三田会 第8回散策会　11月16日

吉川 雅春（1964 商）

今回の散策会は都心を離れ、紅葉美しい鎌倉を訪れました。幸いにも晴天に恵まれ、午前10時に北鎌倉駅へ集合し、昔寺内に女性が駆け込み３年間修行すれば離縁出来る縁切寺として知られる東慶寺を訪れ、また鎌倉十井のひとつ甘露の井のある浄智寺を訪ねました。さすがに日曜だけあって多数の参拝客が有り、又車の行列がすごく、歩くのに大変苦労しました。

その後、今では舗装され歩き易くなっていますが、昔は亀でも容易に登れなかったと言われている「亀ヶ谷（やつ）坂切通し」を通って海蔵寺を訪れました。ここは鎌倉らしい静けさが境内に満ちていました。北鎌倉の寺内、紫陽花の花が多く６月頃訪れると良いと思います。

その後急坂の有る「化粧（けわい）坂切通し」を通って葛原ヶ岡神社へ向かいました。ここは南北朝時代に南朝の後醍醐天皇に仕えた日野俊基（としもと）がまつられ、木造の簡素な鳥居が建つ静かな神社で、まわりには源氏山公園もあり楽しいところです。

その後銭洗弁天を訪れて一休みし、本日の昼食どころである指月庵に到着しました。この間約２時間半で、楽しい一日となりました。

指月庵は三菱の岩崎氏から柳屋ポマードの外池氏がこの地を入手し、上方から職人を呼んで茶室を作り、これを北鎌倉円覚寺管長朝比奈宗源老師が指月菴と命名し、現在の料理茶屋に至っています。ここでは鎌倉に由来した手若膳を戴き、又食後五十嵐さんの歌もとびだして、和やかな一時を過ごしました。昼食後解散となり鶴岡八幡宮へ向かい、そこでは七五三を祝うかわいらしい子供をつれた人達に出会い、又お嫁さんの行列を見ることも出来て、鎌倉らしい雰囲気を楽しみました。

2000年 港区三田会会報第9号より

港区三田会10年目にあたり

港区三田会会長　櫻内 義雄（1935 経）

平成元年11月に発足して以来今年で11年目の新春を迎え、港区三田会を代表して、会員の皆様のご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

港区三田会も年を追う毎にその活動内容が充実してきており、昨年は第10回記念総会を開催するに至りました。その他の活動では恒例の月例会、散策会、講演会、ゴルフコンペの他に、国内旅行、海外旅行なども企画されたと報告を受けております。私は公務の都合で昨年は総会には参加出来ませんでしたが、今年は時間をつくって色々な活動にも参加させていただこうと思っております。営利団体ではない三田会のような親睦団体は、発足させる事は割合に簡単ですが、継続して運営していき、かつ内容を一歩一歩向上させて行く事の難しさを私は痛感しております。役員の方々のご苦労は言うまでもありませんが、会員一人一人の皆様が自分達の三田会なのだという自覚の元に、皆が力を合わせてこの会を大きなものに育んでいかれる事を心から願って止みません。私も今まで同様、時間の許す限り参加、協力していく所存でおりますので、会員各位のより一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

2000年 港区三田会会報第9号より

「港区三田会 99年第10回記念総会・懇親会」報告

平成11年4月14日（火）、東京都港区の全日空ホテル「瑞雲の間」にて99年の総会が開催されました。第10回の記念総会ということもあり、130名近い出席者を数えました。岡田千鶴司会者（昭43・文）のもと、中国出張で欠席の櫻内会長にかわり、梁瀬次郎副会長の挨拶で総会が開会しました。総会の議長に吉岡民子君（昭46・法）が選出され議事が進行し、当日出席の会員により全ての議事内容は滞りなく承認されました。昨年の活動報告並びに会計報告の後、

新しい理事として戸塚由理恵君（昭47・法）が選出されました。また、平成11年の活動予定案も提示されました。その後、塾よりお越し頂いた鳥居塾長より御挨拶及び塾の近況報告を頂戴し、出席者全員で塾歌を斉唱して総会は閉会しました。

引き続き行われた懇親会は野田和敬君（昭55・商）の司会にて進められ、連合三田会会長の服部禮次郎当三田会顧問からのご挨拶を頂き、長島昭常任理事よりの乾杯の発声にて懇親会が開会となりました。当日来賓でお越し頂いた近隣三田会の足立三田会、城北三田会、杉並三田会、発祥の地中央区三田会、三鷹三田会、武蔵野三田会、目黒三田会の方からご挨拶を頂いた後、職域三田会の東芝三田会、キッコーマン三田会をご紹介しました。懇親会チケットによる抽選会、チアリーダーの応援で会場は一層盛り上がり、最後は恒例の参加者全員による肩を組んでの「若き血」、「丘の上」を斉唱し、99年総会並びに懇親会は盛況の内に終了しました。

2000年 港区三田会会報第9号より

海外三田会交流記（韓国編）

池田 裕（1957 政）

金浦空港は雨だった。最初に訪れたソウル観光の目玉『景福宮』も灰色に沈んでいた。私たちの韓国訪問第一歩はまず売店で傘を求めることから始めなければならなかった。

李朝の王宮であった景福宮には、王の即位式や朝礼の行われた勤政殿、国王の宴会場であった慶会楼、そして日常の政事が司さどられた思政殿など多くの貴重な建物が存在する。43万平方メートルに及ぶその広大な敷地の一角に在る国立中央博物館とともに、凝縮された韓国の歴史を見る思いであった。

3日間のソウル滞在でわれわれ8名の港区三田会メンバーが顔を揃えたのは、この景福宮観光とその夜の現地三田会との交流会だけで、あとはゴルフ、市内観光、韓国エステ、ショッピングその他、思い思いに羽根を伸ばした3日間であった。

私たちの泊まったグランドハイアットは、新羅ホテル、ロッテホテルなどと肩を並べるソウルの一流、その2階ロータスの間で開かれた交流会はとても楽しいものだった。

ソウルには塾に留学した韓国人主体の『慶應義塾大学韓国三田会』と日本人商社マンを中心にした『ソウル三田会』が併存する。グランドハイアットホテルの社長小沢満君（昭42・商）の呼びかけで、たった8名の私達を暖かく迎えてくれた約35名の両三田会の有志の皆さんにまず大感謝。私たちは会場のあちらこちらで取り囲まれ時間を忘れて話に花が咲き、最後に全員で

肩を組んで『若き血』を合唱するまで、国境を超えた塾の結束の堅さ、暖かさを実感した数時間であった。

小沢会長が東京出張でお目にかかれなかったのは残念だったが、乾杯の音頭をとった韓国三田会の洪前会長は昭和17年の卒業、ボート部で鍛え上げた180センチを優に超える長身はかくしゃくとして年を感じさせない。駐韓公使の小野田展丈さんは、国際外交を易しくスピーチされて思わず身を乗り出してしまった。翌日も一日中私たちを案内してくれた李武星さんは、延世大学から慶應大学院で工学修士をとったビジネスマン。その他あの人、この人。

短時間ではあったが、思い出に残る多くのふれあいに満ちた訪問ツアーであった。

ソウル三田会の皆さん、韓国三田会の皆さん、本当にありがとう。皆さんお体に気をつけていつまでもお元気で。

2003年 港区三田会会報第12号より

港区三田会会長を辞して

櫻内 義雄（1935 経）

平成元年の発足式より14年目にあたる、平成15年の総会までの長きの間、港区三田会の会長として務めたことは大変光栄に思います。これも役員の皆様のご協力によるものであり、大過なく過ごせましたことに感謝いたします。

近年眼を悪くして外出も困難となり、会長としての職務も充分に行えず申し訳なく存じておりました。昨春高齢を理由に引退を理事の方々にお願いしましたところ、理事改選の年である来春まで会長を継続してほしいと説得され、今日に至った次第であります。会長在職中は理事会や総会は勿論のこと、散策会や月例会にも出席させて頂き、港区三田会の皆様と楽しい交流がもてたことは大変喜ばしく、また楽しい思い出でもあります。私の後任にはIBMの椎名最高顧問が就任されると聞いていますが、彼もまた慶應義塾をこよなく愛する素晴らしい人物であり、有力な会長を迎えられ大いに港区三田会を盛り立てて下さる事と思います。今後も時間の許す限り港区三田会には出席したいと考えております。最後になりましたが、港区三田会の益々の発展を祈念して私の会長引退の挨拶とさせて頂きます。

2004年 港区三田会会報第13号より

櫻内 義雄 元港区三田会会長ご逝去

髙木 繁（1983 医）

港区三田会創立以来、約14年以上会長をお務めいただいた櫻内義雄元港区三田会会長が平成15年7月5日に享年91歳でご逝去されました。

櫻内義雄元会長は、敗戦直後から半世紀に渡り国会議員をお務めになり、通産・建設・外務の閣僚や自民党幹事長、中曽根派会長などの要職を歴任され、平成2年からは3年余に渡り、衆議院議長をお務めになられたことは周知の事実であります。そして、平成12年に政界を勇退されました。

港区三田会におきましては、激務のなか、毎年の総会には必ずご出席くださり、その他にも、月例会や理事会や散策会などにもひょこっと顔をお出しいただき、一同大変感激いたしました。また、見学会では国会を見学出来るようご配慮をいただき、滅多に見学の出来ない国会を見ることが出来ましたことは、思い出として深く心のなかに残っております。

私個人的には、中選挙区制時代は2度選挙のお手伝いに島根県まで参上させていただいたり、議長公邸にお呼びいただいて、宝塚歌劇団のOGの方々と楽しいひとときを過ごさせていただきました。

晩年、耳と目が多少ご不自由になられ、平成15年の春をもちまして、港区三田会会長職を椎名新会長にバトンタッチされました。その3ヶ月後の悲しい知らせとなりましたが、我々は櫻内元会長のご恩を決して忘れることはございません。どうか天国より、我々港区三田会の活動をお見守りください。

合 掌

2004年 港区三田会会報第13号より

会長新任挨拶

椎名 武雄（1951 工）

この度伝統ある港区三田会会長を仰せつかり、いささか緊張している。ましてや、この地区にお住まいの多数の政財界重鎮を差し置き、かつ、櫻内義雄氏が永年のご尽力の後を引き受けさせていただくとあれば、ご遠慮申し上げるのが筋である。

しかし、服部連合三田会会長のご指名を受けてはお断りするわけにもまいらず、思い返せば港区とは公私ともに縁が深い。

まずは、父親も自分も通った頃の普通部は港区にあり、本籍も港区新橋5丁目、家族も中等部や女子高でお世話になった。いずれ入る墓は、港区内の寺にある。日本IBMに50年近く在籍しているが、その大半は六本木の本社に通勤した。いまは、慶應北門の隣のマンションに暮らしている。

港区は、生涯にわたり自分と塾をつなぐヨスガのようなものだ。

会長を拝命したことで、塾にも港区にも少しでも恩返しが出来れば幸いと考えているが、なにぶん微力につき、会員の皆さんのご支援を頂戴して会の発展に尽くしたい。

2006年 港区三田会会報第15号より

慶應義塾創立150年に寄せて

椎名 武雄 会長（1951 工）

米国の大学に行くとその規模の大小を問わず、寄贈者名を大きく掲げた講堂、図書館、教室をよく目にする。日本の学校では、安田講堂等少数を除いてはまず無い。慣習や税制のせいで個人寄付そのものが少ないこともあろうが、寄付者名がれいれいしく明示されるのは、本人も周囲もあまり好まないという「美風」故かとも思われる。

さて、わが母校は2008年に創立150周年を迎える。日本ばかりでなく世界の中でも古い伝統を持つ私学として、誇るべき記念の年となる。安西塾長が大変なリーダーシップを発揮され、塾内外の人々の英知を結集し素晴らしい記念事業が数多く計画されていることはご承知のとおりだ。わが塾が、高等教育の未来を担う先導役たるべく、新しい世界を切り開く年となると確信している。

申すまでもなく、この実現には膨大な資金が必要である。

塾社中一同の強い愛校心はつとに有名だが、150年のマイルストーンを一層輝かしいものにするためには、従来にも増して強力な支援体制が必須だ。陰徳を尊ぶという美風はよしとして、目立って大いに結構の精神で、三田会メンバー一致団結し、輝ける2008年のため頑張りましょう。

2004年 港区三田会会報第13号より

「慶應義塾と私」

森村 俊介（1973 経）

私の家と慶應義塾との関係は明治の最初までさかのぼります。私の曾祖父森村豊が兄、市佐衛門の依頼を受け、ニューヨークで日本人最初の小売店を出したのは明治９年。これは福澤諭吉先生に「日本から金貨の流出を防ぐには日本の品を海外にどんどん売り、もうける以外ない。」と言う教えを、市佐衛門が真剣に考え実行したのです。骨董を中心に売った「森村組」のこの店は徐々に儲かり、その後「ノリタケ」、「東陶機器」「日本ガイシ」などの窯業系企業、更に森村学園とかの教育機関を作る基となりました。杉本苑子さんの「冥府回廊」では、福澤諭吉先生の子息のアメリカ留学の世話は「森村組」がしたと書かれております。私の祖父勇は幼稚舎で藤山愛一郎さんと同級で、それ以来死ぬまで親友だったそうです。私は幼稚舎から慶應にお世話になりました。幼稚舎では吉田利博先生と言う初担任の先生にとてもかわいがって頂き、臆病でおとなしすぎた私を活発にしてくれました。特に後半3年間は高原学校、プール、更に学業も楽しかった。楽しい6年間の後の普通部3年間は辛かった。特に私は運動が極端に不得意で、手先も不器用なので習字や工作も駄目で色々怒られ、野球ばかりやっているクラスの雰囲気にも馴染めなかった。でも1年の頃英語や幾何で良い成績を取り勉強すれば出来るという自信も持てました。

その後中学2年で見た東京オリンピックの影響で、ずっと体育Dの私が体育会の競走部に入り箱根駅伝の選手になるとは、まさかと皆思ったでしょう。高校・大学は長距離競走主体の生活でしたが、当時体重が52kgの私には向いていたようです。現在は体重80kg近くになっていますが、年数回のフルマラソンや100kmマラソンが完走出来るのもこのころの御陰です。

授業も日吉高校は苦手な科目が少なくなり、雰囲気も合い、3年の時はかなり勉強したので経済学部にも入れました。大学の頃興味を持った海外旅行、コントラクトブリッジ、歴史小説などは今もプロ顔負けの趣味となりました。

私の子供二人も御陰様で幼稚舎から慶應。一人は大学経済学部3年、今一人は幼稚舎6年です。二人とも私のように不器用ではなく運動神経もあるので問題も起きず、楽しい生活を送っています。特に次男は6年間運動会のリレーの選手。運動万能でラグビー部。子は親に似ずとの例え通りです。これも妻が良く育ててくれたおかげ。とにかく私と慶應との縁はとても深く50年にもなります。他の学校のことも少しは知らなくてはとも思っています。現在、慶應陸上競技倶楽部の幹事もやらせて頂いています。とにかく慶應が大好きです。

2009年 港区三田会会報第18号より

港区三田会新会長に佐治信忠氏

港区三田会の新会長職をサントリー抹式会社の取締役会長兼社長であられる佐治信忠氏（昭43経）にお引き受けいただくことが決まり、平成21年4月の総会で現会長であられる椎名武雄氏より引継ぎがなされます。

椎名会長には2期6年に渡り会長職をお引き受けいただき感謝申し上げます。引き続き椎名会長には、相談役として港区三田会に残っていただくことになりました。

2010年 港区三田会会報第19号より

「港区三田会　第20回総会・懇親会」　4月14日

平成21年４月14日（火）、青葉若葉のさわやかな風薫る中、赤坂プリンスホテルの「グリーンホール」にて、第20回2009年度の港区三田会総会が安藤孝一君の司会により午後６時半に開会された。今年度で２期６年会長をお勤めいただいた椎名武雄会長より今年度からの佐治信忠新会長への引継ぎの挨拶の後、議長選出により池田裕君が議長を務め議事が進められた。議事内容は滞りなく当日出席の会員により全て承認された。今年度は新理事として森村俊介君と竹中康一氏が選任された。昨年の活動報告並びに会計報告の後、平成21年の活動予定案も提示された。

議事終了後、慶應義塾からお越し下さった、工藤教和常任理事より塾の創立150周年を終了しての近況報告などを頂いた。その後、出席者全員で星野仁一君のリードにより「塾歌」を斉唱して総会は閉会した。

引き続き、懇親会が開催され、服部禮次郎相談役の乾杯の発声により開会となった。当日来賓でお越し頂いた近隣三田会の、発祥の地中央区、足立区、目黒区の方々からのご挨拶を頂いた。その後椎名前会長のＩＢＭチアガールによるダンス披露ならびにビンゴゲームを楽しんだ後、やはり星野仁一君のリードによる「若き血」を斉唱し盛況の内に終了した。

2011年 港区三田会会報第20号より

東京湾クルーズシンフォニー　11月12日

安達 照子（1971 法）

11月12日、東京湾クルーズに参加しました。当日のお天気は快晴。1ヶ月逆戻りしたような暖かい陽気の午後、日の出桟橋に集合しました。

参加者８名は早速乗船し、出航とともにサーブされたアフタヌーンティーをいただきながら写真を撮ったり、お喋りを楽しみました。その後は皆、デッキに上がり思い思いに景色を楽しんだり、又、お喋りしたり。その日の空気にも因るのか、東京のベイフロントはとても素晴らしく海にも汚れはなく、青い空と点在する高層ビルディングとのコントラストは、海外の美しいベイフロントと比べても少しも遜色が無いと思いました。あの景色の奥にある東京の町の喧噪や無秩序に造られた建物等を全然感じさせない光景を、私達は気持ちの良い風に吹かれながら眺めていました。ほんの1時間ちょっとのクルージングでしたが、すっかり気持ちはリフレッシュされ、こんな気分転換の仕方も良いものだと思いながら下船して解散となりました。

2011年 港区三田会会報第20号より

六本木ヒルズクラブ 昼食会＆見学　1月29日

池田 裕（1957 政）

六本木ヒルズを知らない人はいない、今や東京名所の1つとして、オープンから約８年経っても客足の吸引力は健在だ。しかし、ヒルズによく足を運ぶ人でも、その51階の全フロアを使って展開する六本木ヒルズクラブという会員制のレストラン街をご存じの方は少ない。専用の高速エレベータに乗って51階で降り、ホテルのようなフロントを通ると（ここでの会員チェックはかなり厳しい）、外側に向かって大きく開いた窓を和・洋・中など８つのレストランにバー・宴会場等がビルの外形に沿って丸く並び、やや無機質で近代的な空間を出現させている。どのレストランも抜群の眺望が広がる。

１月29日の土曜日、港区三田会の行事の一つとして、六本木ヒルズの見学とヒルズクラブでの昼食会が行われた。ヴィトンやフェラガモ等、世界の有名ブランドが軒を連ねるけやき坂の端にある「つたや」が集合場所だ。この「つたや」は立ち読み自由の店で、棚から勝手に本や雑誌を持ってきて、隣接するスターバックスでコーヒーを飲みながらタダの読書にふける人も多い。ここもヒルズの一隅で、集合即珍しい風景の見学ということになる。

この日の参加者は21名。昼食会はヒルズクラブで唯一のイタリア料理店「クッチーナ」の個室で開催された。ビュッフェ式と着席式をミックスしたような形で進められ、前菜から数種類のパスタ、メインディッシュ、デザート、コーヒーに至るまで歓談に花を咲かせながら舌鼓をうち、全員で記念写真に納まった２時間であった。そのあと、一同打ち揃って54階のスカイデッキに上り、屋上を一周しながら地上238mから見る大東京のパノラマに時の過ぎるのを忘れた。建設中のスカイツリーと東京タワーが一望に納められ、また周囲に視界を遮る建物がないため、都市という名のアートを存分に鑑賞することができた。エレベータで展望台と森美術館のある52階に降りて、ここで一応の解散とする。

美術館の特別イベントとして「星の空間を遊泳する」とうたうプラネタリウムが開催されており、その会場に足を向ける人が多かった。展望台ではこの近辺に住む会員たちが、備え付けの望遠鏡で自宅のあたりに焦点を合わせ、初めて見る我が家の俯瞰風景に歓声をあげる姿も見られた。六本木ヒルズに初めて来たという人もあり、三々五々、好天のもとヒルズやけやき坂を華やぎ、そして緑多き毛利庭園などの散策を楽しんだ一日であった。

末筆ながら協力をお願いした安藤理事のご尽力に多謝。

2015年 港区三田会会報第24号より

千葉グルメツアーに参加して　11月5日

竹内 あゆみ（1988 文）

平成26年11月５日、新宿から一般バスツアーに便乗して、「千葉県グルメツアー」に参加。目指すは鋸山。バスの車窓から海が見えた時には、思わず写真を撮った。生憎の曇りだったが気にしない。

鋸山の山頂へロープウェイで登る。山頂から見下ろした景色は絶景。ここでは曇りなのが少し残念だった。鋸山の観音様へ向かうのに登山をしたり、下山したり。それも急な坂道で結構大変だった。翌日、まだ足が疲れていた。

お昼はお寿司の食べ放題。とれたての魚なので、あの美味しさは言葉では表せない。思わず食べ過ぎてしまった。

さつまいも掘りを体験。私事で恐縮ですが、幼稚園の時以来の経験。思ったよりも沢山とれて、持ち帰りが大変なのと、何日かかって食べ終わるのか？だった。

海苔工場の見学。有名人も大勢訪れるとの事で、工場内は写真でいっぱい。新鮮な海苔をお土産に買った。

はちみつ採取を見学。はちみつがどのようにして作られるのかを見たのは、初めての貴重な経験だった。

又、現場の人達が皆、若い人達だったのも印象的。中には「若い人が地味な事をがんばっていて偉い」とほめていた人も。全員に小瓶のはちみつがプレゼントされた。

帰りの車窓は海を眺めながら。最後の休憩場所は「海ほたる」。初めて訪れたのだが、良いところだった。新宿に着き、重いさつまいもと筋肉痛の足で帰途へ。

とても充実した１日だった。このツアーを企画して下さった、髙木先生に心から感謝。

2017年 港区三田会会報第26号より

港区三田会12月例会・忘年会　12月18日

三田村 祥子（2000 文）

去る12月18日、2016年最終の港区三田会が開催されました。年の瀬に、25名もの幅広い業種・年齢層の皆様が秘蔵のワインを片手にお集まり下さいました。

お馴染みバグーズバーの美味しいお料理を肴に、次期東京都議会に立候補する大塚たかあき君の都政への思い（とウラ話）。安藤孝一君のあつい応援演説、野田和敬君による、BRBへのお誘い（今度伺います）。金森圭司君によるコンサートの集い（４月１日開催です）。そして、恒例の逆ビンゴではバグーズバーの皆様も勝利し、大いに盛り上がりました。若輩者の私が申すまでもなく、港区三田会は、通常では繋がることが難しい多種多様な皆様が集まる大変貴重な「場」として機能しています。それはひとえに髙木事務局長の尽力があればこそです。

３月の納会までまだまだイベントも控えております。皆様是非ご参加ください。

各自ワイン１本持ち寄りで盛り上がった、港区三田会忘年会
（撮影　林 荘祐氏）

2016年 港区三田会会報第25号より

「港区三田会　第26回総会・懇親会」報告

平成27年4月14日火曜日、ホテルニューオータニにて2015年度の港区三田会総会が、安藤孝一君の司会により午後6時半に開会された。

総会はまず佐治会長代行の池田裕常任理事の挨拶の後、議長選出により野田和敬君が議長を務め、議事が進められた。

昨年の会計報告並びに活動報告の後、今年度の上半期の活動予定案内も提示され、議事の内容は滞りなく当日の出席の会員により全て承認された。また昨年亡くなられた山中博治氏の逝去のお知らせ、今年度より月例会の会場、開催月、開催曜日の変更が伝えられた。その後、慶應義塾からお越し下さった渡部直樹常任理事より塾の近況報告などを頂いた後、出席者全員で「塾歌」を斉唱して総会は閉会した。

引き続き懇親会が開催され、梶浦卓一君の乾杯の発声により開会となった。当日来賓でお越し頂いた近隣三田会の新宿、足立、目黒、城北三田会の方々からのご挨拶を頂いた。今年初参加の方々の簡単なスピーチの後、シンガーソングライターの古澤剛さんの歌を聞き、また、全員で「あの素晴らしい愛をもう一度」を合唱し、その後アンラッキービンゴで盛り上がった後、野田和敬君のリードの元、「若き血」を歌い中締めとなった。今回の出席者は来賓の方をあわせ、総勢64名であった。

今回も、港区三田会会員で日本古美術「白水」の代表を務める寺崎正君より、出席者全員に高級煎茶のプレゼントを頂いた。

2016年 港区三田会会報第25号より

「クルーザーでの夜桜見学」　3月30日

髙木 繁（1983 医）

3月30日気温も暖かく晴天のもと、19名でナイトクルージングを楽しんできました。6時にバグース・バー芝浦アイランド店に集合し、ビュッフェで食事を済ませ、軽食とワインを持ち込んで7時に乗船。一旦東京湾に出てレインボーブリッジを潜り隅田川を上ります。東京タワーなどの夜景を見ながら川沿いの桜を堪能しました。桜は七分咲き、永代橋の手前でUターン、スカイツリーも見え、皆さんキャビンを出てデッキにおられる時間が長かったようです。8時半に下船して皆で記念撮影、その後再びお店に戻りデザートを食べて9時に解散となりました。この企画は昨年の8月に決めたにもかかわらず、桜の時期といい天候といいバッチリだったのは、皆さんの日頃の行いが良いからだろうと神に感謝しました。

2017年 港区三田会会報第26号より

抱腹絶倒ボブハウス例会　2月15日

林 荘祐（1965 工）

替え歌の殿堂といわれる六本木の「ボブハウス」は、歌とおしゃべりで大いに楽しめる、知る人ぞ知るお店です。港区三田会事務局からいただいた例会イベント案内に「抱腹絶倒間違いなし」とあり、これは行かねばならぬと、さっそく参加の申し込みをしました。添え書きに「一度企画したお店ですが、好評につき再度企画しました」とあります。

六本木交差点から歩いて５分ほど、ステーキハウス瀬里奈本店の裏手です。今年2月15日（水）午後7時、現地集合で、会員ら16名の参加でした。おもてなしの食事とドリンクで静かに歓談のあと、演奏が始まると店内の雰囲気は一変、笑いの渦に包まれました。足しげくワインなどを運んでいた店長＆ベースのアルシンドTANAKA（本名･田中充）さんが冒頭、ステージの前にテーブルを並べて、何をするかと思ったら、その上に寝っ転がり仰向けになってアザラシの物まね、これがまた口髭の店長が顔かたちともそっくりで大爆笑でした。芸能部長と名乗るシュガーTOSHI（同･佐藤年生）さんがギターとヴォーカルで、替え歌がまたうまい。

熱演のTANAKAさん（右）とTOSHIさん（撮影　林 荘祐氏）

「お嫁サンバ」を熱唱の髙木繁さん（撮影　林 荘祐氏）

昭和歌謡が多いそうです。主な持ち歌は「よせばいいのに～新米ゴルファー編」――♪♪どうにもならない下手だと言われても…。もう一つは「あずさ2号～悲しき左遷編」――♪♪８時ちょうどの朝の会議で　私は私は本社から旅立ちます…。

エンターテイナーのお二人が「従業員」として1989年秋オープンで25周年記念を催したばかりのお店を切り盛りしています。名刺がユニークです。店長の名刺に趣味は「ソープランド･二輪･四輪･スキー」、芸能部長は「結婚･山菜･キノコ採集研究」とあります。ご専門の趣味についても、ぜひご高説を伺いたいと思います。芸能部長の歌唱力、店長の演技力に聞きほれ見ほれ、下ネタもふんだんに、ご出席の淑女の皆さんも大いに楽しまれたようです。参加者からは「歌がうますぎて替え歌がギャグに聞こえない」との声も出て芸能部長が「まじめな」元歌もご披露。後半はカラオケタイムになり、なかでも髙木事務局長の「お嫁サンバ」は歌も振りも抜群。にぎやかに次回も期待してお開きとなりました。

2017年 港区三田会会報第26号より

髙木繁事務局長が副会長に就任

この度、平成元年の港区三田会発足以来、事務局長として積極的に会の運営にご尽力いただいた髙木繁君（1983医）が副会長に就任されました。今後も、これまで以上の有意義なイベント企画・開催に向けて、高所から港区三田会の発展の推進力となってくださいます。

新事務局長には、野田和敬君（1980商）が就任いたしました。何卒よろしくお願いいたします。

副会長に就任した髙木繁君（右）と新事務局長の野田和敬君（左）
（撮影　林 荘祐氏）

2017年 港区三田会会報第26号より

夢のスター歌謡祭　12月6日

毛利 千里（1969 文）

「毛利さん、歌謡祭行ったでしょ。原稿書いてよ」と「呂尚」でおいしい鴨とお酒にいい気分でいた時、いきなり振られた。（ええ！それ去年のことですよね。昨日のことさえ定かでないのに忘れちゃったわ。山本リンダじゃないけれど、困っちゃうなー。）と思ったけど、美味しいお酒の勢いでついつい引き受けてしまい、現在後悔真っ最中。プログラムもないし記憶のみを頼りに書いているので断片的な報告ですみません。

平成28年12月6日（火）、雪でも降りそうな寒い夕方でした。中野サンプラザホール6時開演。開演を待つ間、BS放送のCMでよく見かけるおじさんが（夢グループの社長さんでした）舞台のスクリーンで電気釜の宣伝、また以前は新婚家庭らしく洗剤のCMをしていたチェリッシュの二人が、今日は紙おむつのCMをしていました。時の流れをしみじみ感じます。開演トップは狩人、もちろん歌うのは『あずさ2号』。二人とも今でもスリムでダンスも披露しかっこよかったです。ロザンナは、「リピートの部分（愛の奇跡）をひとつ飛ばしちゃった」と後で正直に告白していました。野口五郎、北原ミレイ、平浩二、おりも政夫、あと韓国の歌手など（多分いたと思う。間違ってたらごめんなさい）と続いて、トリが私のお目当てのタイガースのトッポ（加橋かつみ）。友達とジュリーかショーケンか、タイガースかテンプターズかと言い合った日々が懐かしく浮かんできました。若き日にかえったのは一瞬でしたが楽しいひと時でした。

最後にT氏にお願い。

せっかく歌に聞きほれているのに、紙袋に隠したお酒をちびちび飲みながら「（歌詞にあるような）あんな甘い言葉言われたことありますか？」と現実に引き戻すようなことを耳元でささやくのはやめてね。

2018年 港区三田会会報第27号より

東京競馬場貴賓室で競馬観戦　6月17日

鎌田 和彦（1983 経）

港区三田会初企画となる東京競馬場貴賓室での競馬観戦に、家内と二人で参加させて頂きました。実は二人とも競馬初体験で、競馬場に入場したとたん、その広さに圧倒されました。当日は梅雨時とは思えない青空で、芝生の緑が映えわたりとても綺麗でした。貴賓室は競馬場正面メモリアルスタンドの7階に在ります。馬主とか競馬関係者だけが利用できる特別施設で、通常では立ち入ることが出来ません。元来英国紳士淑女のスポーツだけあって、ドレスコードも厳しく、ジーンズ、Tシャツ、短パン、サンダルは不可です。建物入口の「関係者以外入場禁止」の看板を横目で眺めながら、来賓受付で入館手続きを済ませ、専用エレベーターでVIPフロアーに向かいました。貴賓室は港区三田会専用のプライベートルームで、部屋から専用観戦テラスが直結しています。テラスからの眺望は最高で、スタートゲートからゴールラインと隅々まで見渡せます。部屋にはモニターが4台有り、出走前の馬の紹介や当日のレース結果、他の地方競馬場の実況中継など色々な情報を流していました。

貴賓室に到着早々、野田事務局長から勝馬投票券（馬券）の買い方を教わり、何も分からず馬名が可愛いとか面白いとかだけで適当に第3レースを購入。結果、なんと家内の選んだ馬がゴール直前で逆転1着、私の馬が3着となり、いきなり単勝（選んだ馬が1着）＋複勝（選んだ馬が1着から3着の中に入る）で、配当金をゲット！正しくビギナーズラックでした。レースの合間に、競馬場職員の方による、馬券の買い方入門編の講習がありました。ド素人でも分かるように、とても丁寧に教えて頂けました。講習の成果を試すべく続けて第4レースを購入。このレースは馬が柵や池を飛び越えて行く障害レースでした。このレースでも、なんと家内の選んだ馬が1着、私の馬が2着でゴール！立て続けに単勝＋複勝で配当金をゲット！

撮影　鎌田 和彦氏

昼食は貴賓室でホテルオークラの豪華懐石弁当を頂きました。勝利のビールと共に戴いたお料理は格別の味わいでした。港区三田会のお蔭で貴賓室のVIP待遇と初競馬が体験出来て、とても楽しい時間でした。

私共は都合により昼食後に失礼し、勝ち逃げしましたが、残られた皆様方の勝敗は如何だったでしょうか?!

2019年 港区三田会会報第28号より

佐治会長と美味しいサントリービールを飲む会　9月28日

中村 茂博（1992 経）

「災害級の暑さ」が続いた夏も終わりようやく秋らしくなってきた9月28日（金）、東京メトロ・赤坂見附駅すぐ近くの「MALTBAR WHISKYVOICE赤坂店」にて、「佐治会長とサントリービールを飲む会」が開催され、24名が参加しました。

開会後、佐治会長が登壇され、通常ビールには使われない「ダイヤモンド麦芽」を使用したサントリー社（以下「同社」といいます）のビール製法や、荒廃していた名門シャトーである「ラグランジェ」を買収し立て直すなど、同社の昨今の取組状況についてお話されました。その後、佐治会長は各テーブルを回り参加者と歓談され、「角ハイボール」はジョッキに注ぎ見映えがよくなることによりヒットに繋がったなど、楽しいエピソードを聞かせていただきました。（なお、考案者は同社営業部門の若手社員数名が名乗りを上げているが、特定できないとのことです。）

当日は、催しのタイトルに謳っているサントリービール・マスターズドリームの他、今では品薄となっている国産ウイスキー「響」、赤ワインが飲み放題で、カツサンドなどお料理も美味しく、皆さん満足の様子でした。

2019年 港区三田会会報第28号より

慶應連合三田会大会　10月21日

髙木 繁（1983 医）

2018年の連合三田会が10月21日晴天の下、開催されました。来往舎脇に港区三田会のブースを構えてお待ちしておりましたが、多くの港区三田会の会員の皆さんに顔を出していただけました。今記念館工事中で、場所が狭くて不便でしたが、この場所は前日より野田和敬事務局長が取りに行ってくれた場所で感謝です。私は何処の模擬店にも加山雄三ライブも行かず、ブースで一日中日向ぼっこしていました。でもたくさんの会員の方にお会いできて嬉しかったです。個人的な事で恐縮ですが、福引部会の野田事務局長により御呪いを掛けて頂いたせいか、K賞、E賞、I賞、O賞全部当たりました。

ただ記念品引き換えは例年通り、朝8時に列に並んでも、良い品は全て無くなっていて何とかならないものでしょうかね。

会員寄稿記事

三たびに及ぶ天覧試合の光栄

池田 裕（1957 政）

長い歴史に彩られ、日本の野球発展の夜明けを飾った慶早戦であるが、その中でも特筆に値するのは三度に及ぶ天覧試合であろう。戦前の天皇は現人神（あらひとかみ）と呼ばれ、一般人はまともにお顔を拝することも出来なかった。日本中の小学校に奉安殿という天皇、皇后両陛下の写真を並べて入れてある小さな社があって、その前を通る場合は必ず奉安殿に向かって二拍一礼することになっていた。そんな時代の天覧野球試合の第１回は、1929年（昭和４年）秋、大学リーグ戦が幕を下ろした後の11月１日、優勝した早大と２位の慶大によって行われた。このころ、読売巨人軍によるプロ野球の創設に先立つこと４年、日本中が慶早人気の頂点に達していた。

慶大が宮武三郎（高松商）、早大が小川正太郎（和歌山中）の投げ合いになったが、慶大の打線が火を噴き12対０の大差で慶大の勝利となった。メンバー表によると、慶大には水原茂（高松商）・山下実（神港商）、早大には三原脩（高松中）等、後世の大スターが並ぶ。

二度目の天覧試合は戦後の焼け跡の残る1950年11月16日、天皇（昭和天皇）・皇后（香淳皇后）に加えて、皇太子殿下ご一家揃ってご観戦になった。翌1951年サンフランシスコ講和条約が調印されて、日本は独立を取り戻すことになる。プロ野球の人気もますます高まり、多くの野球ファンが球場を埋めるようになった。この試合は早大が末吉俊信（小倉中）、慶大が平古場昭二（浪華商）の両エースの登板となり、早大が７回岩本尭（田辺高）の三塁打と末吉のタイムリーで１点を挙げ逃げ切った。

それから44年の歳月が流れて1994年５月29日、三度目の天覧慶早戦が行われた。この間、慶早の手に汗握る熱戦に変わりはないものの、天皇のお立場は激変していた。第１回慶早天覧試合の頃の天皇は現人神であり、奉安殿の主であり、また陸・海・空３軍の将兵に檄を飛ばす大元帥陛下であった。第２回、1950年の天覧試合の場合は、駐留軍のマッカーサー司令官の命令に忠実に従う一敗軍の将であった。そして1994年、民主国家として日本は平和を取り戻し繁栄を謳歌している。天皇を始めとする皇室一家は国民の敬愛の的であった。

この試合で天皇・皇后両陛下が午後２時に神宮球場にご到着になり、試合をゲームセットまで、それから閉会式及び天皇杯授与まで長時間にわたってご観戦になった。

本塾の高木大成（桐蔭学園高）、中村大輔（富士高）の２人は、早大の織田淳哉（日向高）からホームランを打って５対２で塾の快勝に貢献した。神宮球場のネット裏にある貴賓席で陛下に野球の解説を務めた東京六大学野球連盟相田暢一理事に、陛下が「今投げたのはフォークボールですか」と非常に造詣の深い質問をされたというエピソードが残されている。

この三回に及ぶ天覧試合がいかに貴重なものかということは、100年を超える日本の学生野球の歴史の中でも例がない、しかも同じ対戦相手と選ばれるのだから、この慶早だけが目立って、これでは東京二大学ではないかというクレームもあるようだ。そういえば六大学リーグ戦の最終週は成績に関係なくいつも慶早の単独カードとなっているのは何故だと質問されたことがある。慶應義塾体育会野球部の前身である三田ベースボール倶楽部が創設されたのは1888年（明治21年）のことで、それに遅れること13年の1901年（明治34年）に早稲田大学野球部の誕生をみることになる。当時はまだ東京専門学校という名前であった。

その当時1920～1940年頃の、いわゆる日本の野球の黎明期に強豪校として伝えられているのは旧制第一高等学校（現東大教養学部）、学習院大学、明治学院、立教中学などで、慶應と早稲田はそれらの強豪校を次々と破って人気の中心となった。この当時の慶應と早稲田の人気は、今からでは想像もつかないものであったようで、入場券が手に入らず入場券の抽選販売まで行っている。しかもその抽選申し込みが20万枚を超えたというから、その人気の凄さが想像できる。日本で初めてダフ屋が出現したのもこの頃である。東京六大学野球リーグ戦は、慶應義塾大学と早稲田大学を中心に親しい仲間が集まって切磋琢磨を重ねた末、腕を磨いてきた。そういう伝統のもとに成り立っているのだ。

天覧試合というのは、決して一時の風潮や一時の人気に左右されるものではなく、まことに稀有なことと言わねばならない。

港区三田会の想い出

安藤 孝一（1963 法）

此の度港区三田会が30年誌を作成すると言う事を聞き、はや30年も経過したのかと感じざるを得ません。

1．最近の慶應塾生新聞12月13日号によれば、関東大学サッカーリーグ戦で慶大サッカー部は3年ぶりの関東一部リーグ昇格が決まった。

2．一方港区三田会の会員も関心の高い慶應大学野球部の出場している第50回記念明治神宮野球大会において、19年ぶり4度目の日本一を達成されました。塾長、社中慶びの姿を見るにつけ共にうれしく感じます。

3．港区三田会の櫻内会長は日本バトミントン協会会長でもありました。私は幼稚舎5年からバトミントン部に所属し大学迄進みました。当時のバトミントン部は大学一部リーグ戦で毎回優勝を争うほどの強いチームでした。

大学バドミントン部時代に杉野女子短期大学バトミントン部に大学からコーチとして頼まれて出向き、チームが“昭和36年度関東大学バトミントン秋季リーグ戦女子三部優勝”の盾を日刊スポーツ新聞社から贈られ、杉野女子短期大学では大変な慶びでした。コーチとしても特別な出来事でした。当時の杉野女子短期大学の杉野若理事も塾員でした。

4．初代港区三田会櫻内義雄会長との思い出として。

桜内会長は港区三田会のイベントになると総会は元より、散策会なども必ずといってよいほど出席頂き、会員の我々の方が衆議院議長の櫻内さんが毎回のように出掛けてこられる姿を見て髙木繁事務局長（当時）も力の入れ具合が変わって来た様に思われるほどでした。

5．港区三田会の髙木繁副会長は、ある時、散策会で気分が悪くなった会員が出たりするとドクターとしての髙木繁先生が対応して下さり、それ以降も必ず散策会には同行し会員一同、心強く、恐縮するほどでした。お陰で多くの会員が散策会に参加し、港区三田会の定番行事になりました。会員の増加にも役立ちました。

6．第二代会長には櫻内義雄会長からの指示もあり次の会長を探して来る様に言われ、服部禮次郎さんの所に出掛けてまいりました。当初は会長をお引き受け頂けるような雰囲気でしたが、服部さんから電話があり、良い人が見つかったので直接話して来なさいと日本IBM椎名武雄社長の所に行くように指示されました。

椎名武雄さんの秘書室経由でアポを取り訪問。お話の経過を説明しました所、慶應では先輩から言われたら決して断ってはいけないんだよ、と教えられました。その際に椎名武雄さんから言われたことは、慶應義塾創立150周年が終るまでは自分が引き受けるから次の会長は決まっているのかい、と尋ねられましたので、予定している方がおりますと申し上げました。それでは、それまではお引き受けしましょうと言われ、そのことを服部禮次郎さんに報告に参りましたらそれは良かつたと大変慶んでくださいました。

7．椎名武雄会長は1929年生まれで慶応大学工学部と米国バックネル大学工学部を卒業された方です。またkf旧制普通部の中でインタビューを受けられ最後にアドバイスとして「今の普通部の生徒には自ら考え自ら行動するというのがこれからの世の中に本当に必要になる、という事を言っておきたい。僕もそういう教育の場にいたことを幸せだと思うし、これからも益々そういう教育を進めて言ってください」と、平成23年11月28日のインタビューで締めくくられておられました。

8．椎名武雄さんと約束した次期会長のお話ですが、慶應義塾150周年記念パーティーが帝国ホテルで開催された際、サントリーの佐治信忠社長さんにお会いし、次期会長のお話を申し上げました。服部禮次郎さんから直接連絡が来ますのでお断りしないで下さる様、お願い申し上げますとお話いたしました。結果第三代港区三田会会長をお引き受けいただき御就任頂きました。

佐治信忠会長は港区三田会の為に献身的にいろいろと援助頂き現在に至っている状況です。これからも引続き大役を続けて頂く様切にお願い申し上げている大物会長さんです。

9．現在港区三田会の事務局長をお引き受け頂いている野田和敬氏は慶應高校出身の若手で、奥様も幼稚舎からの慶應一族です。野田事務局長のパワーは若手会員を多く集めて、月例会会場に入りきれない位に会員を集め事前予約まで行う程人集めの上手な方です。髙木繁副会長のお薦めの方でもあり、これからの港区三田会を発展させる原動力になる方として期待いたしております。

10．これからは：

佐治信忠会長のもと、皆様と共に港区三田会を盛り立て応援してまいります。それが櫻内義雄会長の港区三田会再発足でのお言葉にもあるように、旧知の或いは未知の同窓生との交流が近い将来、必ずや新しい社会的価値を生み出してゆくことになるだろう。

会員寄稿記事

港区三田会の思い出

執行 恒治（1964 経）

港区三田会30周年を迎えたこと、真に喜ばしいことと存じます。

これも会長を始め理事の皆様の弛まぬご尽力の賜物と思料致します。

当三田会は慶應義塾の祖である福澤諭吉先生の開塾の場所に結成された誇りある存在です。

私は昭和39年に卒業、勤務した会社が港区にあったため入会させていただき20年余りとなります。

当時は髙木繁先生が事務局長をされており、定例の月例会の他、色々な企画、例えば散策会、ラグビー・野球・大相撲・競馬等の観戦、コミカルショウの観賞、その他あらゆるジャンルの企画を立てて下さり、会員間の親睦を深めるご努力をいただきました。

私もいくつか参加させて貰いました。たとえば鎌倉の散策会に会員の方に案内頂き妻と共に参加しましたが、通常見られぬ場所も拝見し、とても感動致しました。夫々参加した行事につきましても同様、今も記憶に残っております。

この様な多種多様な活動をされている三田会は他に類がないと思っており、この港区三田会に属して改めて良かったと思います。

その他、会員は夫々異業種で活躍されておられ、情報交換の場としてもご意見を頂くこともありました。

私事ですが、今は亡き髙木繁先生には大変お世話になりました。私の妻、娘の癌発病の際、専門医を紹介して頂き、夫々順調に推移しております。私自身も持病を抱えていますが、医師を紹介して頂き順調に今に至っています。改めて港区三田会に入会し、皆様にお世話になり得られたものは私の財産となっています。

この様な卒業後の活動は他の大学では余り見られず、近年若い方が従前より会員として増加しているように感じられ、嬉しく思っております。

今後の港区三田会の益々のご発展、ご繁栄、又、会員の皆様のご健勝を衷心よりお祈り致します。

会員寄稿記事

三田会は人生の拠り所

柴田 透（1969 経）

学生時代のクラス・ゼミ・クラブはもとより、卒業後の職域・地域・業界等の三田会に参加し、一年間振り返ると、三田の冠のイベントや会合に1週間に1回以上は参加していたことになります。

幼稚舎からの祖父と兄はじめ多くの親戚たちの慶應色が強い中で育ちました。卒業までは慶應の名のもとに心地の良い学生生活を送り、社会人になってからは慶應卒の先輩に指導をうけ初対面でも仕事を円滑にできました。本当に慶應との関わりが無かったら全く違う人生になったと思います。

慶應総本山の御膝元の港区三田会は、30周年（本来は私と一つ違いの72周年）を迎えました。初代・櫻内会長や二代目・椎名会長の頃は在籍したものの総会やゴルフ会のみの出席でしたが、佐治会長のもと故髙木副会長が本会をマネジメントする頃から時間的に余裕もでき色々なイベントにも参加するようになりました。月例会での先輩の方々との懇談、厳選された美味しいグルメ会、早慶戦はじめとするスポーツ観戦、コミックショウパブ・ものまねの観賞、お花見の会と忘年会、どの会も楽しく新たな仲間をつくり本当に楽しく盛り上がりました。

これからを担う後輩の方々は、伝統を守りながら新たな港区三田会をつくっていただきたいと存じます。

会員寄稿記事

30周年おめでとうございます

永田 雅士（1971 工）

いつ頃港区三田会に入会させていただいたかはさだかではないのですが、多分創立間もない頃、私が港区に住んでいた頃だと思います。

慶應のOB会はいくつか入っていますが、その中で港区三田会は小さな集まりのせいか、一番親しみやすいものでした。

最初の頃は何回か懇親ゴルフ会に出席したり、ウナギを食べにいったりした覚えがあります。また先輩方にも随分とお世話になりました。椎名先輩には、私がゴルフクラブの仕事をしていた時にドライバーなどお買い求めいただき、その時確か夏でしたので先輩いわく、「来週末に軽井沢の麓の安中でゴルフするから宿泊しているホテルに届けてくれ」と言われ、先輩は当日包み紙をはがしてぶっつけ本番で使われたようです。

佐治先輩には、私が幹事をしていた銀座ロータリークラブの旅行でサントリー白州工場訪問を企画した時に、手厚いウェルカムアレンジをしていただきました。池田先輩の奥様のジュエリーデザイナー池田啓子先生には集大成の素晴らしい作品集の本を制作させていただきました。

安藤先輩には仕事のキッカケづくりにいろいろな企業をご紹介、ご同行していただきました。いずれも港区三田会の後輩に寄せてくださった暖かい温情を忘れることはできません。

本当に慶應義塾の良さ、港区三田会の素晴らしさを心にしみて感じております。30周年、おめでとうございます！

会員寄稿記事

港区三田会とのお付き合い

浜田 敏男（1977 法）

港区三田会創立30周年誠におめでとうございます。慶應義塾で塾監局がある港区で、多々ある三田会の中心的存在として30周年を迎えた事は一会員としても大変喜ばしい事であります。

私が港区三田会に入会しましたのは平成10年です。私は帝国ホテルにある東京三田倶楽部にも所属しておりますが、当時そこで企画委員長をされていた戸塚由理恵さんから港区三田会の入会を勧められました。私の家業の株式会社龍名館は明治32年から千代田区、中央区でホテルを経営しておりますが、平成５年、港区六本木３丁目に和食料理店「六本木龍名館花ごよみ」を開業しました。店の経営姿勢は地域密着型を心掛けていましたので戸塚さんのお話を伺い、これは港区に縁の深い方々と親交を深める事の出来る絶好の機会だと港区三田会に入会させて戴きました。

入会時の事務局長は去年亡くなられた内科医師の髙木繁先生でした。会員相互の面倒見もよく、私も入会当初から大変お世話になりました。髙木先生は良く私共の店にいらして先生の母校である灘高校の同期会を必ず私の店で開いて下さいました。店は3丁目から6丁目に引っ越しましたがその会は今でも続いています。

髙木先生は港区三田会の中心的な役割を担うばかりで無く、いろいろな分野で活躍され、地域医療にも大きく貢献されました。早逝されたのは本当に寂しく残念に思います。

港区三田会の毎月の例会は皆さんアクティブで出席率もよく、すぐお顔を覚えることが出来ました。恒例の会員によるスピーチ、会員の博識ぶり、見識の高さ、ポジティブさに感心するばかりです。それぞれ興味深く、自分の勉強不足を痛切に感じ、スピーチを聞く度に「よし、何事にも積極的に取り組もう」と力が湧きます。

例会以外の催しも楽しい物ばかりです。海外ツアー、浅草散策、とりわけ花見の時期のクルージング、美味しいお酒を飲みながら船上からの花見は格別でした。

一番思い出深いのは台北旅行です。台北各所の名所旧跡を回り美味しい台湾料理を食べる楽しい旅でした。特に台湾三田会との交流は私にとって大きな収穫でした。台湾三田会会員で故宮博物院学術員の會淑芸先生には故宮博物院を案内して戴きました。大陸からの中国人観光客で大混雑、長蛇の列を尻目に我々だけすぐに見学できる様、便宜を図って下さり、貴重な文化財をゆっくり鑑賞することが出来ました。

會淑芸先生は展示品の隅から隅まで良くご存知で、難しい事をいとも簡単に説明して下さいます。「このお皿一枚あれば親子孫三代は食べていけます。」などと実に面白く解説して下さいました。その後、會淑芸先生は東京に滞在中、私共の「ホテル龍名館お茶の水本店」に立ち寄られ、当家に伝わる古い鼎を見分して下さいました。台湾三田会の新しい友人と一層の親交を深める機会を得ることが出来、本当に有意義な旅になりました。

他の海外ツアーでも港区三田会と現地三田会の交流が盛んに行われ、その度に慶應義塾社中と各三田会の人脈の豊かさ、団結力の強さを認識し、自分がその一員である事を誇らしく嬉しく感じます。

私は三田会の活動を通して、多くの素晴らしい友人を得ることが出来ました。又、私共の店を知って戴き、多くの会員の皆様にご利用戴いている事を大変有難く思っております。

龍名館は現在港区新橋６丁目で「ホテル1899東京」、六本木６丁目で和食レストラン「紺碧の海」を経営しています。今後も家業に励みながら港区三田会の更なる発展のお役に立てるよう会の運営に参加していく所存です。会員の皆様にはこれからも何卒ご指導賜ります様、お願い申し上げます。

会員寄稿記事

私の三田会人生

金森 圭司（1978 政）

日本に居ては日本の良さが分からないのと同様、私が慶應の良さをより認識し始めたのは卒業後からだった。

思い起こせば昭和53年に政治学科を卒業したものの、音楽家への道を諦めきれず東京芸大に進学したのであるが、盛大だった慶應の卒業式に比べ、旧奏楽堂で行われた芸大の入学式があまりに貧弱で、その違いに驚いたものであった。

その後30歳までヴァイオリニスト兼指揮者として生活していた私が今度は医学に目覚め医師になったのであるが、寝食もままならない産婦人科勤務医の生活に一区切りをつけて、「広尾かなもりクリニック」を開業した10年前頃に港区三田会にも入会したと記憶している。

今でこそ港区医師会で理事も仰せつかり、他の医師会員のお世話もする側であるが、当時は西も東も分からず、その時当時の港区三田会のまとめ役であった故髙木さんに、開業に当たって随分と色々な事を手取り足取り教えて頂き大変心強かったものである。

また、ワグネルオーケストラ三田会、政治学科の池井研究会三田会などは卒業以来直ぐに参加していたが、三田会活動が忙しくなったのは年度三田会（私は119）の幹事として連合三田会の担当になった頃からであった。

塾生時代知らなかった他学部の同級生や10年違いの塾員達と協力して、日常の利害を超えて連合三田会を一緒に作り上げていく過程で一気に三田会人脈が何倍にも増え、三田会生活にどんどんハマっていった。

外国に行くと、日本が如何に便利で安全で清潔で、しかもちゃんとしているかをいつも再認識させられ、日本人としてこの世に生を受けた事に感謝するのが常であるが、塾員としてこのような三田会人脈を一生持ち続けていける事の素晴らしさを再認識し感謝する今日この頃である。

会員寄稿記事

旧図書館のオルゴールの相続

柳井 健夫（1991 法）

幼少の頃、両親からオモチャを買ってもらった記憶がない。野球が好きで、いつも外で遊んでいたせいだと思う。そんな私が家に居るとき、オモチャ代わりにしていたのが、旧図書館の形をしたオルゴールであった。父が商学部の1期生で、卒業記念に手に入れたものであった。西側壁面がスライド式の引出しになっており、開けると、「若き血」のメロディが流れる。オルゴールの音色で聞く「若き血」は少しの哀愁を感じられながらも、勇壮さは変わらなかった。歌詞を教えてもらい、酔った父親と一緒に、よく歌ったものだった。「若き血」を刷り込まれた野球少年の私は、高校を卒業すると、当然のように、体育会野球部に入部した。ところが、豈図らんや、急に司法試験を目指し、３カ月で野球部を辞めた。その良し悪しは措くとして、今は、弁護士として活動をしている。後悔があるとすれば、４年間勉強に明け暮れ、塾の仲間を作れなかったことだ。卒業後は、仕事や育児に追われ、塾との関りも無くなってしまった。そんな折、子供の小学校のPTA会長を務めた際、PTA会長のOBとして当会の大塚隆朗先輩と知り合った。そして、先輩に勧められるままに、当会へ入会した。正直、恐る恐る参加したのだが、諸先輩方は、同窓という事実だけで、温かく迎えてくれた。会の終わりには、あの懐かしい「若き血」を肩を組んで熱唱した。卒業後28年が経過していた。直ぐに、当会の居心地の良さの虜になってしまった。三田会は、日本一ならぬ、世界一の同窓会である。お膝元の港区三田会の会員でいられることに誇りを感じている。今さらながら、当会で、多くの塾の仲間を作り、大学生気分を少し味わっている。私には、高二から年中までの子供が５人いる。残念ながら、未だ塾生はいない。しかし、何十年か後には、全員が港区三田会の会員になっていることを願っている。父親は６年前に亡くなったが、旧図書館のオルゴールは、遺産として引き継いだ。子供たちの間で、旧図書館のオルゴールを巡り、遺産分割の争いが起きないか心配している。

会員寄稿記事

会員寄稿記事

25周年台湾旅行

小屋 洋一（2001 経）

2015年9月21日（日）～23日（火）に港区三田会25周年記念旅行企画として、台湾（台北）への2泊3日の旅行があり、参加いたしました。

私自身、港区三田会には2015年4月の総会から入会させていただいた新参者でありますので、他の会員の方々も良く存じ上げない中で参加することもあり、正直当日までいくぶん緊張しておりました。

初日、羽田空港に午前5時半集合。早朝の中皆さん、きちんと時間通りに勢揃い。飛行機で台北まではあっという間。唯一懸念されていた台風（ちょうど台湾を直撃していた）も台湾東海岸沿いに進行中で飛行機に大きな影響は出ませんでした。

台北ではバスがチャーターされており、移動も快適。まずは台湾といったらココ！の鼎泰豐（ディンタイフォン）へ到着。グルメな旅の始まりです。鼎泰豐で美味しい小籠包を腹いっぱい詰め込んで、次は蒋介石記念館（中正記念堂）へ移動。こちらでは衛兵交代を観光しました。その後市内で最古のお寺、龍山寺を見学してホテルへ到着。朝も早かったのでホテルで休息し、夜の台湾三田会との懇親会に備えます。そして、夜は有名台湾料理の「青葉」で台湾三田会との合同懇親会。台湾三田会さんに熱烈な歓迎をしていただきました。

台湾では戦前より医学部を中心に多くの学生が慶應に留学をしていたそうで、現地台湾人塾員によって長い事「台湾慶應会」が組織されていたそうです。もうひとつ現地日本人塾員が開催していた「台北三田会」が1995年に合流して現在の「台湾三田会」に発展してきたというお話でした。したがって懇親会では、台湾人塾員の方、駐在員として台湾在住中の塾員の方など多くの方々と台湾での生活や経済状況など幅広くお話をお伺いすることができました。

また本格的な台湾料理は初めて食べましたが、中国本土の料理とはまた一味違ってとても美味しくいただくことができました。台湾三田会の皆様には本当にお世話になりました。感謝しております。特に故宮博物院の志工協会会長を務められていた會淑芸（女性）さんには、翌日の故宮博物院見学の際に、急遽スケジュールを調整いただき港区三田会のために館内解説を務めていただき、大変楽しく内容の濃い故宮博物院見学となりました。

2日目は、午前中に先ほど触れた故宮博物院見学。午後には九份という台湾郊外の観光地を周り台湾の文化と大自然を満喫しました。

3日目は、台湾三田会との合同ゴルフに参加する班と、自由行動班に分かれて行動。私は台北在住の旧友とお会いしたり、足つぼマッサージを受けたりのんびりして過ごしました。

こうしてあっという間に、3日間のスケジュールを消化して日本に帰ってきました。心配された天候もそれほど大きな影響もなく、参加者みなさんがそれぞれ有意義で楽しい思い出の残る旅行となりました。港区三田会には参加したばかりの私ですが、改めて塾の諸先輩方の優しさと、国境を超えた三田会の絆の深さを再確認する旅となりました。

最後に25周年記念旅行を幹事として企画していただいた故髙木常任理事には深く御礼を申し上げます。

2019年度活動記録並びに出席者記録

■港区三田会創立30周年記念総会・懇親会　2019年5月11日(土)

慶應義塾　塾長 長谷山彰様、塾員センター課長 北村和夫様
足立三田会　会長 近藤勝様
城北三田会　会長 木川るり子様
新宿三田会　会長 八木秀記様
杉並三田会　代表世話人 服部泰様
世田谷三田会　事務局長 横山誠二様、幹事 飯田浩一様
中野三田会　会長 北島勇様
目黒三田会　会長 安川健様、副会長 乃村博子様
港区三田会会員・ゲスト（敬称略）
青木陽一、安藤孝一、五十嵐康之、伊藤裕三、飯田むつみ、池田幸司、池田裕、稲垣純一、稲垣好子、渡辺新、上野景典、梅津基市、小川貴章、小田恒義、大塚隆朗、大貫孝雄、太田秀和、岡田孜、押本泰彦、久保居寛孝、佐治信忠、佐治英子、櫻井裕大、桜内美貴子、加藤晴子、執行恒治、柴田透、白鳥覚、田中久璽子、平光宏、高橋賢樹、武石陽一、武石希、竹内あゆみ、武見敬三、寺崎正、中村茂博、中村光康、永田雅士、西岡康弘、野田和敬、服部昌憲、浜田敏男、林荘祐、林達夫、林恭弘、伴紀子、日原聡一郎、桝田邦道、三田村和夫、三田村祥子、村上治江、毛利千里、森淳、柳井健夫、山岡登文子、佐野太一郎、山谷萌子、山本隆夫、防村信行、志方理奈、米盛泰輔

■『浅草新春歌舞伎』 2019年1月12日(土)

青木陽一、安達照子（2名）、梅津基市、日原聡一郎（2名）、毛利千里、吉川雅春

■『大相撲1月場所』 2019年1月20日(日)

青木陽一、池田裕、鎌田和彦（2名）、髙木繁（2名）、林荘祐、伴紀子（3名）、森村俊介（2名）、渡邊静彦（2名）

■『第9回グルメ会・エピスカネコ』 2019年3月7日(木)

安達照子、池田裕、桜内貴美子（2名）、浜田敏男、林荘祐（2名）、伴紀子（2名）、深見和代、毛利千里、森村俊介（2名）、野田和敬

■『慶應義塾を歌い継ぐ会』 2019年6月9日(日)

飯田むつみ、林荘祐、桝田邦道（2名）、村上治江、野田和敬

■『東京競馬場貴賓室での競馬観戦』 2019年6月15日(土)

鎌田和彦（2名）、高橋賢樹、山本隆夫（2名）、野田和敬

■『佐治会長とサントリービールを飲む会』 2019年8月2日(金)

相田英文、安達照子、五十嵐康之、上野景典、梅津基市、太田秀和、櫻井裕大（2名）、桜内貴美子（2名）、白鳥覚、相馬耕三、高橋賢樹、中村茂博、服部昌徳、林荘祐、原嘉希、毛利千里、森 淳、山田治彦、米盛泰輔、野田和敬

■『BRBスペシャル 神宮燃ゆ 清澤忠彦氏』 2019年9月6日(金)

林荘祐、森村俊介、柳井健夫、野田和敬

■『Big Band SPECIAL 森寿男＆ブルーコーツ』 2019年9月7日(土)

五十嵐康之、毛利千里、森村俊介、野田和敬

■『真鶴での農園バーベキュー』 2019年9月21日(土)

岡本成美、白鳥覚、新野敏則、森村俊介（2名）、山田治彦、野田和敬　（雨天の為中止となりました）

■『慶應連合三田会大会』 2019年10月20日(日)

第2校舎前テントに多数の会員が集まり歓談しました。

■『塾蹴球部応援 早慶戦』 2019年11月23日(土・祝)

高橋賢樹、中川陽介（2名）、野田和敬（2名）

■『塾野球部を囲む会』 2019年12月22日(日)

五十嵐康光、中村茂博、原宏和、野田和敬

■2019年例会

2月例会	2月19日(火)	安藤孝一、五十嵐康之、池田裕、上野景典、岡田孜、髙木繁、角田三平、服部昌憲、林荘祐、三田村和夫、三田村祥子、柳井健夫、山本隆夫、吉川雅春、野田和敬
4月例会	4月16日(火)	池田裕、上野景典、岡本成美、佛子邦夫、柳井健夫、野田和敬
6月例会	6月19日(火)	池田裕、岡田孜、岡本成美、志方理奈、白鳥覚、杉山広隆、高橋賢樹、服部昌憲、米盛泰輔、野田和敬、竹内聡美、大野雅、後藤宏樹、北見大輔、冨永淳志、佐野太一朗、西口まり、高野一生
8月例会	8月20日(火)	相田英文、五十嵐康之、大塚隆朗、岡田孜、岡本成美、川瀬恵史、佐竹和夫、志方理奈、白鳥覚、末松正和、杉山広隆、高河夏子、新野敏則、服部昌憲、三田村和夫、三田村祥子、森村俊介、柳井健夫、米盛泰輔、山本龍摩、野田和敬
10月例会	10月15日(火)	相田英文、五十嵐康光、五十嵐康之、上野景典、大塚隆朗、岡田孜、岡本成美、櫛田眞司、志方理奈、白鳥覚、須賀陽介、高橋賢樹、中村茂博、服部昌憲、平山達也、古田智子、三田村和夫、山本龍馬、米盛泰輔、野田和敬、中川優志、貫尾昴平、国近宜裕、西山泰光、柳治郎
忘年会	12月17日(火)	相田英文、青木陽一、五十嵐康光、五十嵐康之、石川祐二、大塚隆朗、太田秀和、岡本成美、櫛田眞治、坂田玲美、志方理奈、白鳥覚、中島克二、中村茂博、中村光康、貫尾昴平、林荘祐、原純一、日原聡一郎、三田村和夫、三田村祥子、毛利千里、柳井健夫、山本龍馬、吉川雅春、野田和敬

〈近隣三田会参加記録〉

「城北三田会創立65周年記念総会」2019年6月15日(土)　於：三田キャンパス　参加者 池田裕
「中野三田会総会」2019年6月15日(土)　於：交詢社　参加者　柳井健夫
「城北三田会クリスマス家族会」2019年12月20日(金)　於：池袋メトロポリタンホテル　参加者 安藤孝一

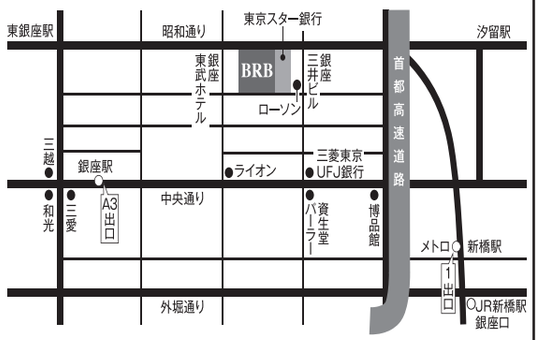
港区三田会　例会のご案内

会　場：BRBクラブハウス

住　所：中央区銀座7-13-8 第2丸高ビルB1
☎03-3541-0801
（第2丸高ビルの1階は中央年金事務所です）

会　費：5,000円（フリードリンク・お食事付）

開催日：偶数月の第3火曜日 19:00～21:00
◎2020年　2月18日、6月16日、8月18日、10月20日、12月15日(忘年会)



最寄駅
○JR「新橋駅」銀座口より徒歩7分
○東京メトロ「銀座駅」A3出口より徒歩5分

髙木繁さんご逝去

髙木さんの港区三田会を中心とした略歴
1955年5月3日生まれ
1974年　灘高校卒業
1983年　慶應義塾大学医学部卒業
1988年　港区三田会設立準備委員
1989年　港区三田会事務局長の就任
以後2017年まで、港区三田会のすべてのイベントの幹事役を務める
2017年　港区三田会副会長に就任

港区三田会副会長の髙木繁さんが2019年6月19日に64歳でお亡くなりになりました。髙木さんは、2017年夏ごろから体重がどんどん増え体中に水が溜まり全身倦怠感と全身の痒みが酷くなり肝機能の悪化に悩まされていました。

2018年正月明けに医者仲間に相談されたところ、助かる方法は肝臓移植しかないと診断され、2月に信頼できる後輩の勤務する岩手医大にて15時間にわたる大手術の末、命を取り留めました。4ヶ月の入院を経て5月末には退院、8月例会に参加。9月の「佐治会長と美味しいサントリービールを飲む会」が開催できたのは、髙木さんの強力なパワーのおかげです。また10月の連合三田会大会では、早朝より来往舎前の港区三田会ブースにて会員の皆様と懇談されていました。なんと今回は、福引にてK賞・E賞・I賞・O賞のすべてをゲットするという快挙も成し遂げました。

しかし11月上旬より腹水がたまり始め、11月・12月の2か月間再入院、12月28日に退院されました。

長期の入院で体力低下が激しく、歩行障害や起立障害に悩まされながらも、2019年2月の港区三田会理事会・例会に参加されましたが、残念ながらこれが最後のお姿になってしまいました。

9月19日にホテルニューオータニ鳳凰の間でお別れ会があり、多くの弔問者が来ておられ、髙木さんの交友関係の広さを物語っていました。港区三田会からも15名ほどの会員が参加、髙木さんの思い出を語り合いました。心よりご冥福をお祈りいたします。

事務局長 野田和敬（1980 商）

編集後記

この度、港区三田会30数年記念誌発行にあたり編集を担当しました大塚隆朗（1982年法卒）と申します。一言お礼を申し上げます。

昨年暮れに野田和敬事務局長から「大塚君、実は港区三田会が30周年を迎えたので記念誌を発行したいけど編集長をやってくれる?」と声をかけられました。一瞬戸惑いましたが、歴史と伝統ある港区三田会に少しでもお役立てればと二つ返事でお引き受けいたしました。

どこから手を付けていい良いかわからないまま、年が明けて取り敢えず銀座のBRBの事務所へ向かい野田先輩と打合せを行いました。

先ずは、印刷をお願いする業者を決めるのが先決、そして港区三田会会報をお願いしている神林印刷さんにお願いすることになりました。

そこから定期的に同社の角田さんと野田先輩と3人で週1回の定例編集会議を経てなんとか最後の校正そして発刊までこぎつけました。

先輩方に寄稿をお願いする作業、広告掲載に伴う協賛金を依頼する作業、過去の会報から原稿や写真を選定する作業、どれをとっても私には新鮮に感じると共に過去の港区三田会の歴史を知ることが出来る楽しく貴重な体験でした。

大切に第1号からの会報を保管して頂いていました先輩、コロナ騒動で経済が不透明な折、寄付をして頂いた先輩方に対して感謝の気持ちで一杯です。

櫻内初代会長、歴代会長の重みや、惜しみないご苦労の上に大先輩が築き上げて頂いた港区三田会がいかに素晴らしいかを実感する数ヶ月でした。

また、残念ながらお亡くなりになりました髙木繁先輩の港区三田会を愛する思いは道半ばになってしまいましたが、我々がしっかり引き継で行かなければと改めて三田の山に思いを馳せました。そして、今回野田和敬事務局長の下で編集作業に携わり、更に港区三田会が発展することを祈りたいと思います。

記念誌発行に先輩・後輩各位のご協力に改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

残念ながらコロナウイルス感染拡大に伴い、総会開催が延期になってしまいました。一刻も早い収束と会員皆様のご健勝とご発展を祈念し編集後記に変えさせて頂きます。

港区三田会30周年記念誌　編集長　大塚 隆朗（1982年法卒）

港区三田会三十周年記念誌

令和二年四月　初版第一刷発行

編　集　港区三田会30周年記念誌制作委員会
記念誌発行委員長　池田　裕（1957政）
編集長　大塚 隆朗（1982法）
Adviser　安藤 孝一（1963法）
事務局　野田 和敬（1980商）

発　行　港区三田会
〒104-0061東京都中央区銀座7-15-5
共同ビル4F　BRB事務局内
TEL.080-2029-0505

印　刷　神林印刷株式会社